

大学番号：私288

[平成31年度設置]

計画の区分：大学の設置

認可

福岡国際医療福祉大学

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人高木学園
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ガクムカチョウ 学務課長 シヤマ 島山 ヨシヒロ 義弘

電話番号 092-832-1200

（夜間） 092-832-1200

F A X 092-832-1167

e-mail fiuhw-soumu@takagigakuen.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

- 3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医療学部

<理学療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 留意事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	25

<作業療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	28
2. 授業科目の概要	32
3. 施設・設備の整備状況、経費	37
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	38
5. 教員組織の状況	39
6. 留意事項等に対する履行状況等	50
7. その他全般的事項	51

<視能訓練学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	54
2. 授業科目の概要	58
3. 施設・設備の整備状況、経費	63
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	64
5. 教員組織の状況	65
6. 留意事項等に対する履行状況等	76
7. その他全般的事項	77

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高木学園

(2) 大学名

福岡国際医療福祉大学医療学部理学療法学科

(3) 調査対象大学等の位置

〒814-0001

福岡県福岡市早良区百道浜3丁目6-40

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成11年2月)		
学長	(イマイズミ ツトム) 今泉 勉 (平成31年4月)		
学部長			
学科長等	(ヒイラギ ユキノブ) 柊 幸伸 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
医療学部 理学療法学科 学士（理学療法学）	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）	年 4	人 40	年次 人 0	人 160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告 年度までの平均 入学定員超過 率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40人 (-) [若干名]	- 人	人	人	人	人	人	人	1.22倍	—	
志願者数	184 (-) [2]	-	()	()	()	()	()	()			
受験者数	181 (-) [2]	-	()	()	()	()	()	()			
合格者数	68 (-) [1]	-	()	()	()	()	()	()			
B 入学者数	49 (-) [0]	-	()	()	()	()	()	()			
入学定員超過率 B/A	1.22										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	49 [-] (-)	- [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			49 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	136 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{136} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療学部 理学療法学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学	1,2,3,4前	1								兼1
	倫理学	1,2,3,4前	1								兼1
	文学	1,2,3,4前	1								兼1
	教育学	1,2,3,4前	2								兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4前	2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1								兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前-後	2			6	1	5	1	2	兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4前	1								兼1
	法学	1,2,3,4前	1								兼1
	経済学	1,2,3,4前	1								兼1
	社会学	1,2,3,4前	1								兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4前	2								兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1,2,3,4前	1								兼1
	生物学	1,2,3,4前	2								兼1
	物理学	1,2,3,4前	2								兼1
	統計学	1後	2					1			
	医療とICT	1前	2					1			
	生命倫理	1後	2								兼1
人間工学	1,2,3,4前	2								兼1	
健康科学理論	1,2,3,4前	1								兼1	
健康スポーツ実践	1,2,3,4前	1								兼1	
大学入門講座	1前	1			1					兼2	
医学英語Ⅰ	1前	1								兼1	
医学英語Ⅱ	1後	1								兼1	
英語(基礎)	1,2,3,4前	1								兼1	
英語(応用)	1,2,3,4前	1								兼1	
英会話	1,2,3,4前	1								兼1	
韓国語*	1後	2								兼1	
中国語*	1後	2								兼1	
小計(31科目)		-	16	29	-	6	1	5	1	2	兼39
(留学生用)	日本語Ⅰ	1,2,3,4前	1								兼1
	日本語Ⅱ	1,2,3,4前	1								兼1
	日本語Ⅲ	1,2,3,4前	1								兼1
	日本語Ⅳ	1,2,3,4前	1								兼1
	小計(4科目)		-	4	-	0	0	0	0	0	兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学	1,2,3,4前	1								兼1
	倫理学	1,2,3,4前	1								兼1
	文学	1,2,3,4前	1								兼1
	教育学	1,2,3,4前	2								兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4前	2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1								兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前-後	2			6	1	5	1	2	兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4前	1								兼1
	法学	1,2,3,4前	1								兼1
	経済学	1,2,3,4前	1								兼1
	社会学	1,2,3,4前	1								兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4前	2								兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1,2,3,4前	1								兼1
	生物学	1,2,3,4前	2								兼1
	物理学	1,2,3,4前	2								兼1
	統計学	1後	2					1			
	医療とICT	1前	2					1			
	生命倫理	1後	2								兼1
人間工学	1,2,3,4前	2								兼1	
健康科学理論	1,2,3,4前	1								兼1	
健康スポーツ実践	1,2,3,4前	1								兼1	
大学入門講座	1前	1			1					兼2	
医学英語Ⅰ	1前	1								兼1	
医学英語Ⅱ	1後	1								兼1	
英語(基礎)	1,2,3,4前	1								兼1	
英語(応用)	1,2,3,4前	1								兼1	
英会話	1,2,3,4前	1								兼1	
韓国語*	1後	2								兼1	
中国語*	1後	2								兼1	
小計(31科目)		-	16	29	-	6	1	5	1	2	兼39
(留学生用)	日本語Ⅰ(未開講)	1,2,3,4前	1								兼1
	日本語Ⅱ(未開講)	1,2,3,4前	1								兼1
	日本語Ⅲ(未開講)	1,2,3,4前	1								兼1
	日本語Ⅳ(未開講)	1,2,3,4前	1								兼1
	小計(4科目)		-	4	-	0	0	0	0	0	兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖学実習	1前	1			1				2		
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1	
	生理学実習	1後	1				1			2	兼2	
	病理学	1後	1				1					
	臨床医学概論	1前	2				1					
	1.2.3後 公衆衛生学			2							兼1	
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1	
	内科学Ⅰ	2前	1				1					
	内科学Ⅱ	2後	1				1					
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1	
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1	
	整形外科学Ⅰ	2前	1								兼1	
	整形外科学Ⅱ	2後	1				1					
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1	
	精神医学Ⅱ	2.3後		1							兼1	
	小児科学	2前	1								兼1	
	老年学	2後	1								兼1	
	人間発達学	1前	2								兼1	
	臨床心理学概論	2前	2								兼1	
	救急医学	2.3前		1							兼1	
	1.2.3後 薬理学			1							兼1	
	1.2.3後 栄養学			1							兼1	
	1.2.3前 カウンセリング論			1							兼1	
	3前 リスクマネジメント論			2			1					
	1.2.3前 ケアマネジメント論			1							兼1	
	3後 医用画像診断学			1			1					
	1前 運動学Ⅰ			1				1				
	1後 運動学Ⅱ			1					1			
	2前 運動生理学			1				1				
	2前 運動学実習			1			1			2		
	1前 リハビリテーション概論			2			1					
	1.2.3前 保健医療福祉制度論			2							兼1	
	2前 関連職種連携論			2			1				兼2	
	3前 関連職種連携ワーク			3			1			4	兼8	
小計(37科目)		-	33	12	-	7	1	4	0	2	兼21	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖学実習	1前	1			1				2		
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1	
	生理学実習	1後	1					1		2	兼2	
	病理学	1後	1				1					
	臨床医学概論	1前	2				1					
	1.2.3後 公衆衛生学			2							兼1	
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1	
	内科学Ⅰ	2前	1				1					
	内科学Ⅱ	2後	1				1					
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1	
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1	
	整形外科学Ⅰ	2前	1								兼1	
	整形外科学Ⅱ	2後	1				1					
	精神医学Ⅰ	2前	1								兼1	
	精神医学Ⅱ	2.3後		1							兼1	
	小児科学	2前	1								兼1	
	老年学	2後	1								兼1	
	人間発達学	1前	2								兼1	
	臨床心理学概論	2前	2								兼1	
	救急医学	2.3前		1							兼1	
	1.2.3後 薬理学			1							兼1	
	1.2.3後 栄養学			1							兼1	
	1.2.3前 カウンセリング論			1							兼1	
	3前 リスクマネジメント論			2			1					
	1.2.3前 ケアマネジメント論			1							兼1	
	3後 医用画像診断学			1			1					
	1前 運動学Ⅰ			1					1			
	1後 運動学Ⅱ			1					1			
	2前 運動生理学			1					1			
	2前 運動学実習			1			1			2		
	1前 リハビリテーション概論			2			1					
	1.2.3前 保健医療福祉制度論			2							兼1	
	2前 関連職種連携論			2			1				兼2	
	3前 関連職種連携ワーク			3			1			4	兼8	
小計(37科目)		-	33	12	-	7	1	4	0	2	兼21	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目(専門科目)	理学療法概論	1前	1			1						
	運動解剖学	1後	1						1	2		
	病態運動学	3後	1							1		
	物理療法 I	2前	1					1				
	物理療法 II	2後	1					1				
	PTスキル I 演習(キャリアデザイン)	1後	1					1			2	
	PTスキル II 演習(検査・測定)	2後	1					1			2	
	PTスキル III 演習(障害理解)	3前	1					1			2	
	PTスキル IV 演習(専門知識の確認)	3後	1					1			2	
	理学療法評価学	1後	1					1				
	理学療法診断学 I (基礎)	2前	2					1				
	理学療法診断学 II (神経診断学)	2前	1					1				
	理学療法診断学 III (疾患別評価)	2後	1							1		
	理学療法診断学 IV (電気診断学)	2,3後	1						1			
	バイオメカニクス	1前	1					1				
	動作分析学	2,3後	1				1					
	運動療法学総論	2前	2					1				
	理学療法治療学総論	3前	1							1		
	運動系理学療法学 I	3前	2							1		
	運動系理学療法学 II	3後	2					1				
	神経系理学療法学 I	3前	2				1					
	神経系理学療法学 II	3後	2					1				
	高次脳機能障害学	3後	1				1					
	代謝系理学療法学	3後	1					1				
	循環理学療法学	3後	1					1				
	呼吸理学療法学	3前	2					1				
	癌のリハビリテーション	2,3後	1				2					
	装具学	2前	1				1					
	義肢学	2後	1				1					
	生活環境学	2前	1					1				
生活技術学	2後	2					1					
地域理学療法学	2前	1					1					
福祉住環境論	3前	1					1					
小児理学療法学	2後	2								兼1		
理学療法技術学	3後	1							1			
先端リハビリテーション科学	3後	1				1						
クリニカルリズニング	3後	1							1			
産科理学療法学	3前	1								兼1		
障害者スポーツ概論	2,3前	1					1					
理学療法特論 I (基礎)	4後	1					1					
理学療法特論 II (応用)	4後	1					1					
リハビリテーション管理論	3後	1				1				兼1		
基礎実習 I	1前	1				1	1	4	1	2		
基礎実習 II	1後	1				1	1	4	1	2		
検査測定実習	3前	2				1	1	4	1	2		
評価実習	3後	3				1	1	4	1	2		
臨床実習 I	4前	7				1	1	4	1	2		
臨床実習 II	4前	7				1	1	4	1	2		
地域理学療法学実習	4前	1				1	1	4	1	2		
卒業研究 I (研究計画の立案)	3後	2				1	1	4	1	2		
卒業研究 II (研究の実践)	4後	2				1	1	4	1	2		
小計(51科目)	-	67	10	-	3	1	4	1	2	兼2		
合計(119科目)	-	116	51		8	1	5	1	2	兼45		
合計(123科目)(留学生)	-	120	51		8	1	5	1	2	兼46		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修100単位(専門基礎科目:33単位、専門科目:67単位)。これ以外に専門教育科目全体から3単位以上選択。(履修課目の登録の上限 49単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目(専門科目)	理学療法概論	1前	1			1						
	運動解剖学	1後	1						1	2		
	病態運動学	3後	1							1		
	物理療法 I	2前	1					1				
	物理療法 II	2後	1					1				
	PTスキル I 演習(キャリアデザイン)	1後	1					1			2	
	PTスキル II 演習(検査・測定)	2後	1					1			2	
	PTスキル III 演習(障害理解)	3前	1					1			2	
	PTスキル IV 演習(専門知識の確認)	3後	1					1			2	
	理学療法評価学	1後	1					1				
	理学療法診断学 I (基礎)	2前	2					1				
	理学療法診断学 II (神経診断学)	2前	1					1				
	理学療法診断学 III (疾患別評価)	2後	1							1		
	理学療法診断学 IV (電気診断学)	2,3後	1						1			
	バイオメカニクス	1前	1					1				
	動作分析学	2,3後	1				1					
	運動療法学総論	2前	2					1				
	理学療法治療学総論	3前	1							1		
	運動系理学療法学 I	3前	2							1		
	運動系理学療法学 II	3後	2					1				
	神経系理学療法学 I	3前	2				1					
	神経系理学療法学 II	3後	2					1				
	高次脳機能障害学	3後	1				1					
	代謝系理学療法学	3後	1					1				
	循環理学療法学	3後	1					1				
	呼吸理学療法学	3前	2					1				
	癌のリハビリテーション	2,3後	1				2					
	装具学	2前	1				1					
	義肢学	2後	1				1					
	生活環境学	2前	1					1				
生活技術学	2後	2					1					
地域理学療法学	2前	1					1					
福祉住環境論	3前	1					1					
小児理学療法学	2後	2								兼1		
理学療法技術学	3後	1							1			
先端リハビリテーション科学	3後	1				1						
クリニカルリズニング	3後	1							1			
産科理学療法学	3前	1								兼1		
障害者スポーツ概論	2,3前	1					1					
理学療法特論 I (基礎)	4後	1					1					
理学療法特論 II (応用)	4後	1					1					
リハビリテーション管理論	3後	1				1				兼1		
基礎実習 I	1前	1				1	1	4	1	2		
基礎実習 II	1後	1				1	1	4	1	2		
検査測定実習	3前	2				1	1	4	1	2		
評価実習	3後	3				1	1	4	1	2		
臨床実習 I	4前	7				1	1	4	1	2		
臨床実習 II	4前	7				1	1	4	1	2		
地域理学療法学実習	4前	1				1	1	4	1	2		
卒業研究 I (研究計画の立案)	3後	2				1	1	4	1	2		
卒業研究 II (研究の実践)	4後	2				1	1	4	1	2		
小計(51科目)	-	67	10	-	3	1	4	1	2	兼2		
合計(119科目)	-	116	51		8	1	5	1	2	兼45		
合計(123科目)(留学生)	-	120	51		8	1	5	1	2	兼46		
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修100単位(専門基礎科目:33単位、専門科目:67単位)。これ以外に専門教育科目全体から3単位以上選択。(履修課目の登録の上限 49単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・教育効果を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。 ・教育効果を考慮し、「文学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。 ・教育効果を考慮し、「アジア比較文化論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。 ・教育効果を考慮し、「英語（基礎）」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。 ・教育効果を考慮し、「解剖学実習」の配当年次を「1前」から「1通」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
79 科目	40 科目	0 科目	119 科目	79 科目 [0]	40 科目 [0]	0 科目 [0]	119 科目 [0]	変更なし

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当事項なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{119} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他 福祉施設相当分532㎡ 土地面積11,558㎡を建 物延べ床面積で按分		
	校舎敷地	10,280.29㎡	㎡	㎡	10,280.29㎡			
	運動場用地	745.71㎡	㎡	㎡	745.71㎡			
	小 計	11,026.00㎡	㎡	㎡	11,026.00㎡			
	そ の 他	532.00㎡	㎡	㎡	532.00㎡			
	合 計	11,558.00㎡	㎡	㎡	11,558.00㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	10,943.35㎡ (10,943.35㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	10,943.35㎡ (10,943.35㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	3学科で使用		
	19室	1室	26室	1室 (補助職員 1人)	室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			3学科で使用		
	医療学部		個室24、共同4 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	
		〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				点
	医療学部	16,069 [608] (14,583 [317])	104 [11] (104 [11])	8,350 [—] (8,350 [—])	1,145 (1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)	
	計	16,069 [608] (14,583 [317])	104 [11] (104 [11])	8,350 [—] (8,350 [—])	1,145 (1,145)	2,254 (1,145)	19 (19)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	297.71㎡		114席		17,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	1,245.37㎡							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	18,963千円	6,117千円	3,000千円
		共同研究費等	1,000千円	3,000千円	設備購入費	173,151千円	167,438千円	3,000千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入ほか					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	福岡国際医療福祉大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
<u>医療学部</u>										
理学療法学科	4	40	0	160	学士 (理学療法学)	1.22		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
作業療法学科	4	40	0	160	学士 (作業療法学)	1.17		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
視能訓練学科	4	40	0	160	学士 (視能訓練学)	1		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医療学部 理学療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学長)	今泉 勉 (71) <平成31年4月> 医学博士	リスクマネジメント論 臨床医学概論
専	教授(副学長)	丸山 仁司 (69) <平成32年4月> 工学修士 医学博士	先端リハビリテーション科学 症のリハビリテーション リハビリテーション管理論
専	教授(学科長)	椋 幸伸 (59) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 リハビリテーション概論 関連職種連携 理学療法概論 器具学 義肢学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)
専	教授	諫山 照刀 (68) <平成32年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ
専	教授	小坂 克子 (64) <平成31年4月> 歯学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習
専	教授	黒岩 俊郎 (64) <平成32年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 症のリハビリテーション 医用画像診断学
専	教授	佐伯 和彦 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅱ
専	教授	田川 辰也 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ
専	准教授	玉利 誠 (43) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学実習 動作分析学 神経系理学療法Ⅰ 高次脳機能障害学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学長)	今泉 勉 (71) <平成31年4月> 医学博士	リスクマネジメント論 臨床医学概論
専	教授(副学長)	丸山 仁司 (68) <平成32年4月> 工学修士 医学博士	先端リハビリテーション科学 症のリハビリテーション リハビリテーション管理論
専	教授(学科長)	椋 幸伸 (59) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 リハビリテーション概論 関連職種連携 理学療法概論 器具学 義肢学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)
専	教授	諫山 照刀 (67) <平成32年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ
専	教授	小坂 克子 (64) <平成31年4月> 歯学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習
専	教授	黒岩 俊郎 (63) <平成32年4月> 医学博士	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 症のリハビリテーション 医用画像診断学
専	教授	佐伯 和彦 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅱ
専	教授	田川 辰也 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ
専	准教授	玉利 誠 (43) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学実習 動作分析学 神経系理学療法Ⅰ 高次脳機能障害学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		吉村 美香 (46) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク PTスキルⅡ演習(検査・測定) 生活環境学 生活技術学 地域理学療法学 福祉住環境論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法学実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)
兼任 講師		吉村 美香 (45) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
専 講師		山之口 稔隆 (39) <平成31年4月> 修士(医療経営管理学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 統計学 医療とICT 生理学実習
専 講師		吉塚 久記 (39) <平成32年4月> 修士(医科学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン) PTスキルⅢ演習(障害理解) 理学療法評価学 バイオメカニクス 運動療法学総論 障害者スポーツ概論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法学実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践) 関連職種連携ワーク
兼任 講師		吉塚 久記 (38) <平成31年4月> 修士(医科学)
		運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン) 理学療法評価学 バイオメカニクス 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
専 講師		光武 翼 (34) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動生理学 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 理学療法診断学Ⅱ(神経診断学) 理学療法診断学Ⅳ(電気診断学) 神経系理学療法学Ⅱ 理学療法特論Ⅰ(基礎) 理学療法特論Ⅱ(応用) 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法学実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践) 関連職種連携ワーク
専 講師		藤田 大輔 (33) <平成32年4月> 博士(リハビリテーション学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) PTスキルⅣ演習(専門知識の確認) 理学療法診断学Ⅰ(基礎) 運動系理学療法学Ⅱ 代謝系理学療法学 循環系理学療法学 呼吸理学療法学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法学実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践) 関連職種連携ワーク

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		吉村 美香 (45) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク PTスキルⅡ演習(検査・測定) 生活環境学 生活技術学 地域理学療法学 福祉住環境論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法学実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)
兼任 講師		吉村 美香 (45) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
専 講師		山之口 稔隆 (39) <平成31年4月> 修士(医療経営管理学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 統計学 医療とICT 生理学実習
専 講師		吉塚 久記 (38) <平成32年4月> 修士(医科学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン) PTスキルⅢ演習(障害理解) 理学療法評価学 バイオメカニクス 運動療法学総論 障害者スポーツ概論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法学実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践) 関連職種連携ワーク
兼任 講師		吉塚 久記 (38) <平成31年4月> 修士(医科学)
		運動学Ⅰ 運動学Ⅱ PTスキルⅠ演習(キャリアデザイン) 理学療法評価学 バイオメカニクス 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
専 講師		光武 翼 (34) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動生理学 物理療法Ⅰ 物理療法Ⅱ 理学療法診断学Ⅱ(神経診断学) 理学療法診断学Ⅳ(電気診断学) 神経系理学療法学Ⅱ 理学療法特論Ⅰ(基礎) 理学療法特論Ⅱ(応用) 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法学実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践) 関連職種連携ワーク
専 講師		藤田 大輔 (32) <平成32年4月> 博士(リハビリテーション学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) PTスキルⅣ演習(専門知識の確認) 理学療法診断学Ⅰ(基礎) 運動系理学療法学Ⅱ 代謝系理学療法学 循環系理学療法学 呼吸理学療法学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法学実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践) 関連職種連携ワーク

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	谷口 隆憲 (36) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動解剖学 病態運動学 理学療法診断学Ⅲ(疾患別評価) 理学療法治療学総論 運動系理学療法Ⅰ 理学療法技術学 クリニカルリーズニング 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)
		吉富 健志 (63) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座
		北島 栄二 (52) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座
		丹羽 敦 (55) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 リハビリテーション管理論
		菅原 洋子 (69) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
		小牧 元 (67) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理
新居見 和彦 (67) <平成32年4月> 博士(医学)		
海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学		
財津 裕一 (65) <平成31年4月> 医学博士		
海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 社会保障制度論 公衆衛生学 保健医療福祉制度論		
堀川 悦夫 (65) <平成32年4月> 博士(学術)(医学)		
心理学 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 老年学 臨床心理学概論 カウンセリング論		
堀川 悦夫 (64) <平成31年4月> 博士(学術)(医学)		
心理学 カウンセリング論		
森 望 (65) <平成31年4月> 薬学博士		
海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学Ⅱ 薬理学		
飛松 省三 (65) <平成32年4月> 医学博士		
海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 神経学Ⅰ 神経学Ⅱ 生理学実習		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	助教	谷口 隆憲 (36) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動解剖学 病態運動学 理学療法診断学Ⅲ(疾患別評価) 理学療法治療学総論 運動系理学療法Ⅰ 理学療法技術学 クリニカルリーズニング 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 検査測定実習 評価実習 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 地域理学療法実習 卒業研究Ⅰ(研究計画の立案) 卒業研究Ⅱ(研究の実践)
		吉富 健志 (63) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座
		北島 栄二 (52) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座
		丹羽 敦 (55) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 リハビリテーション管理論
		菅原 洋子 (69) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
		小牧 元 (67) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理
新居見 和彦 (66) <平成32年4月> 博士(医学)		
海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学		
財津 裕一 (65) <平成31年4月> 医学博士		
海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 社会保障制度論 公衆衛生学 保健医療福祉制度論		
堀川 悦夫 (65) <平成32年4月> 博士(学術)(医学)		
心理学 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 老年学 臨床心理学概論 カウンセリング論		
堀川 悦夫 (65) <平成31年4月> 博士(学術)(医学)		
心理学 カウンセリング論		
森 望 (65) <平成31年4月> 薬学博士		
海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学Ⅱ 薬理学		
飛松 省三 (64) <平成32年4月> 医学博士		
海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 神経学Ⅰ 神経学Ⅱ 生理学実習		

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定) 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	飛松 省三 (64) <平成31年4月> 医学博士
		生理学実習
兼任	教授	尾籠 晃司 (60) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ
兼任	教授	副島 修 (59) <平成32年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	松田 隆治 (53) <平成31年4月> 修士(人間科学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	松藤 佳名子 (57) <平成32年4月> 修士(文学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	准教授	多賀 誠 (50) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	宇野 宏一 (46) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	橋本 勇希 (33) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐々木 信 (40) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	中園 寿人 (37) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐野 伸之 (32) <平成31年4月> 博士(保健学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	助教	木村 まり子 (49) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	助教	志岐 早苗 (45) <平成31年4月> 修士(文学)
		コミュニケーション概論 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 医学英語Ⅰ 医学英語Ⅱ 英語(基礎) 英語(応用) 英会話

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定) 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	飛松 省三 (64) <平成31年4月> 医学博士
		生理学実習
兼任	教授	尾籠 晃司 (60) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ
兼任	教授	副島 修 (59) <平成32年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	松田 隆治 (53) <平成31年4月> 修士(人間科学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	松藤 佳名子 (56) <平成32年4月> 修士(文学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	准教授	多賀 誠 (49) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	宇野 宏一 (46) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	橋本 勇希 (33) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐々木 信 (40) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	中園 寿人 (37) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐野 伸之 (32) <平成31年4月> 博士(保健学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	助教	木村 まり子 (48) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	助教	志岐 早苗 (45) <平成31年4月> 修士(文学)
		コミュニケーション概論 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 医学英語Ⅰ 医学英語Ⅱ 英語(基礎) 英語(応用) 英会話

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教	助教	王 美蘭 (45) <平成31年4月> 博士(法学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 法学 中国語
兼任 助教	助教	瀬井川 修一 (42) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク
兼任 助教	助教	吉田 亮平 (40) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任 講師	講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士(経済学)
		経済学
兼任 講師	講師	今井 克己 (60) <平成31年4月> 博士(保健学)
		栄養学
兼任 講師	講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育学
兼任 講師	講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士(生物学)
		生物学
兼任 講師	講師	後藤 純信 (58) <平成32年4月> 博士(医学)
		救急医学
兼任 講師	講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士(理学)
		生理学 I
兼任 講師	講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士(理学)
		物理学
兼任 講師	講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)
		社会学
兼任 講師	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士(文学)
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ
兼任 講師	講師	村木 里志 (49) <平成31年4月> 博士(学術)
		人間工学
兼任 講師	講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)
		ケアマネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 助教	助教	王 美蘭 (45) <平成31年4月> 博士(法学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 法学 中国語
兼任 助教	助教	瀬井川 修一 (41) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク
兼任 助教	助教	吉田 亮平 (39) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任 講師	講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士(経済学)
		経済学
兼任 講師	講師	今井 克己 (61) <平成31年4月> 博士(保健学)
		栄養学
兼任 講師	講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育学
兼任 講師	講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士(生物学)
		生物学
兼任 講師	講師	後藤 純信 (57) <平成32年4月> 博士(医学)
		救急医学
兼任 講師	講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士(理学)
		生理学 I
兼任 講師	講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士(理学)
		物理学
兼任 講師	講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)
		社会学
兼任 講師	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士(文学)
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ
兼任 講師	講師	村木 里志 (49) <平成31年4月> 博士(学術)
		人間工学
兼任 講師	講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)
		ケアマネジメント論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> (修士経済学)
		国際医療福祉論			国際医療福祉論
兼任	講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士(人文科学)	兼任	講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士(人文科学)
		哲学			哲学
兼任	講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション医学			リハビリテーション医学
兼任	講師	杉原 浩郎 (43) <平成31年4月> 修士(異文化コミュニケーション学)			
		アジア比較文化論			
兼任	講師	漆川 沙弥香 (39) <平成31年4月> 専門学校卒	兼任	講師	福井 龍 (47) <平成31年4月> 修士(学術)
		人間発達学 小児理学療法学 産科理学療法学			アジア比較文化論
兼任	講師	漆川 沙弥香 (39) <平成31年4月> 専門学校卒	兼任	講師	漆川 沙弥香 (39) <平成31年4月> 専門学校卒
		人間発達学 小児理学療法学 産科理学療法学			人間発達学 小児理学療法学 産科理学療法学
兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)
		ボランティア論			ボランティア論
兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)
		文学			文学
兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)
		倫理学			倫理学
兼任	講師	裴 永珍 (37) <平成31年4月> 修士(芸術工学)			
		韓国語			
兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	貴 慶旭 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)
		健康科学理論 健康スポーツ実践			韓国語
兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)
		健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から重要となっている箇所は赤字としてください。**
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください)。
・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

本務校の都合により杉原活郎講師（兼任）の担当が難しくなったため、福井譲講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
本人の都合により裴永珍講師（兼任）の担当が難しくなったため、黄慶旭講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
8	1	5	1	15	5	1	2	1	9
(5)	(1)	(2)	(1)	(9)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
8	1	5	1	15	8	1	5	1	15
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	1	5
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{15}{15} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{9} = \boxed{11.11} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし						
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	—	科目	必修	—	必修	—
		選択	—	科目	選択	—	選択	—
		自由	—	科目	自由	—	自由	—
		計	—	科目	計	—	計	—

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	—	科目	必修	—	科目	必修	—	科目
		選択	—	科目	選択	—	科目	選択	—	科目
		自由	—	科目	自由	—	科目	自由	—	科目
		計	—	科目	計	—	科目	計	—	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	—	科目	必修	—	科目	必修	—	科目
		選択	—	科目	選択	—	科目	選択	—	科目
		自由	—	科目	自由	—	科目	自由	—	科目
		計	—	科目	計	—	科目	計	—	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	— 科目	必修	— 科目	必修	— 科目
		選択	— 科目	選択	— 科目	選択	— 科目
		自由	— 科目	自由	— 科目	自由	— 科目
		計	— 科目	計	— 科目	計	— 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
設 置 時 (30年8月)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 設置の趣旨・目的を十分に踏まえ、設置計画を確実に履行するための運営組織を整えて教育研究活動を開始した。4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うため、学長は、教授会を始め諸会議体を通じて教育目標、カリキュラムの体系等について合意形成を図る。	履行中
設 置 時 (30年8月)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 高い教育水準を達成するため、優れた教育研究能力を有する教員を配置したことから、開設当初は1名の教員が定年規程の退職年齢を超えている。また、完成年度には5名の教員が退職年齢を超えることとなる。これらの教員は、定年延長に関する内規の適用を受けるものであるが、完成年度後に定年を迎える教員も含め、教育研究の水準を維持しつつ教員年齢のバランスに配慮し、中長期的視野に立った人事計画を策定し教員組織を整備することとしている。	履行中

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD活動に関しては、福岡国際医療福祉大学FD委員会を設置して取り組むこととしている。また、当面は、SDについてもこの委員会での審議に基づき、取組みを展開することとしている。なお、実際の教育運営は教務委員会での検討事項であり、FD委員会は教務委員会と連携し、教育の質の向上を目指すものである。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

2019年5月より開始予定。毎月第2水曜日実施予定。

c 委員会の審議事項等

- ・ 本学の設置の趣旨、教育目標の確認
- ・ 本年度のFD及びSD活動の基本方針について
- ・ 授業評価アンケートについて
- ・ 授業方法についての研究会について

② 実施状況

a 実施内容

今後、次のことを実施予定。

- ・ 新任教員研修
- ・ 授業方法についての研究会
- ・ 授業評価アンケート

なお、平成30年8月15日～16日（設置認可前）に就任予定の教職員を集め、以下の内容で合宿研修を行った。

- ・ 福岡国際医療福祉大学の設置構想について
- ・ 各学科の教育内容について
- ・ リハビリテーションの現況について
- ・ コンプライアンス（セクハラ、パワハラ、アカハラ等）について

b 実施方法

- ・ FD研修会を開催し、教育内容及び教育方法の向上の研修を行う。
- ・ 教務委員会で適正な成績評価基準の在り方等を検討、実施し、FD委員会で検証する。
- ・ 学外で開催されるFD研修会に参加した教員の知見を教授会、教務委員会等で報告し情報共有を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

年に数回のFD研修（全教員の参加を義務付ける。）開催のほか、テーマを設定した上で全教職員による研修会を開催する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ FD研修を通じて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期の終盤にすべての授業科目で学生による評価アンケートを実施する。アンケートは事務部学務課において集計し、学長へ報告する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

事務部学務課において集計したアンケート結果は、FD委員会で分析した上、各教員へ返却する。学生には、結果全体の報告書を学生ポータルサイトに掲載する。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

- c 委員会の審議事項等

該当なし

- d その他

該当なし

② 審議状況

- a 審議した内容

該当なし

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すとともに、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深い教養および総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を養成し、地域医療はもとより国際社会にも貢献し得る有能な人材を養成することを目的に設置された。

開学後の4月より医療者としての素養が育まれる教育が行われている。現状においても質の高い授業が行われており、総合教育科目の「医療とICT」「社会保障制度論」「医学英語Ⅰ」などにおいて、科学的・論理的思考力を身に付け、国際化に対応できる視点を養う学修をしている。専門基礎科目の「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「臨床医学概論」「リハビリテーション概論」などにおいて保健医療福祉とリハビリテーションの理念について学修し、専門科目の「理学療法概論」「バイオメカニクス」などにおいて、基礎理学療法学を学修している。なお、後期には、建学の精神に沿った「生命倫理」が開講される。

設置の趣旨・目的を達成するための、幅広い教養、豊かな人間性、保健医療に関する基礎知識の獲得ができていくものと捉えている。

② 自己点検・評価報告書

- a 公表（予定）時期

・設置初年度（2019年度）及び翌年度（2020年度）の2年間の教育研究活動を総括し、2021年5月公表予定。

- b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

・完成年度（2022年度）後、適切な時期に受審の予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 2019 年 9 月 30 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ 該当なし ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高木学園

(2) 大学名

福岡国際医療福祉大学医療学部作業療法学科

(3) 調査対象大学等の位置

〒814-0001
福岡県福岡市早良区百道浜3丁目6-40

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成11年2月)		
学長	(イマイズミ ツトム) 今泉 勉 (平成31年4月)		
学部長			
学科長等	(キタジマ エイジ) 北島 栄二 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)
令和元年度に報告する内容 → (元)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。）
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
医療学部 理学療法学科 学士（作業療法学）	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）	年 4	人 40	年次 人 0	人 160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40人 (-) [若干名]	- 人	人	人	人	人	人	人	1.17倍	—	
志願者数	69 (-) [-]	-	()	()	()	()	()	()			
受験者数	69 (-) [-]	-	()	()	()	()	()	()			
合格者数	51 (-) [-]	-	()	()	()	()	()	()			
B 入学者数	47 (-) [-]	-	()	()	()	()	()	()			
入学定員超過率 B/A	1.17										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	47 [-] (-)	- [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			47 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	136 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{136} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療学部 作業療法学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	心理学	1前	2								兼1
	哲学	1,2,3,4後		1							兼1
	倫理学	1,2,3,4後		1							兼1
	文学	1,2,3,4後		1							兼1
	教育学	1,2,3,4後		2							兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4後		2							兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1			1					
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前-後	2			7	2	2	2		兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4後		1							兼1
	法学	1,2,3,4後		1							兼1
	経済学	1,2,3,4後		1							兼1
	社会学	1,2,3,4後		1							兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後		2							兼1
	社会保障制度論	1前	2								兼1
	ボランティア論	1,2,3,4後		1							兼1
	生物学	1,2,3,4後		2							兼1
	物理学	1,2,3,4後		2							兼1
	統計学	1後	2								兼1
	医療とICT	1前	2								兼1
	生命倫理	1後	2			1					
	人間工学	1,2,3,4後		2							兼1
	健康科学理論	1,2,3,4後		1							兼1
	健康スポーツ実践	1,2,3,4後		1							兼1
	大学入門講座	1前	1			1					兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1								兼1
	医学英語Ⅱ	1後	1								兼1
	英語(基礎)	1,2,3,4後		1							兼1
	英語(応用)	1,2,3,4後		1							兼1
	英会話	1,2,3,4後		1							兼1
	韓国語*	1後	2								兼1
	中国語*	1後	2								兼1
小計(31科目)		-	16	29	-	7	2	2	2	0	兼39
(留学生用)	日本語Ⅰ	1-2-3-4後	1								兼1
	日本語Ⅱ	1-2-3-4後	1								兼1
	日本語Ⅲ	1-2-3-4後	1								兼1
	日本語Ⅳ	1-2-3-4後	1								兼1
	小計(4科目)		-	4	-	0	0	0	0	0	兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2									兼1
	哲学	1,2,3,4後		1								兼1
	倫理学	1,2,3,4後		1								兼1
	文学	1,2,3,4後		1								兼1
	教育学	1,2,3,4後		2								兼1
	コミュニケーション概論	1,2,3,4後		2								兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2,3前-後	2			6	1	5	1	2		兼25
	アジア比較文化論	1,2,3,4後		1								兼1
	法学	1,2,3,4後		1								兼1
	経済学	1,2,3,4後		1								兼1
	社会学	1,2,3,4後		1								兼1
	国際医療福祉論	1,2,3,4後		2								兼1
	社会保障制度論	1前	2									兼1
	ボランティア論	1,2,3,4後		1								兼1
	生物学	1,2,3,4後		2								兼1
	物理学	1,2,3,4後		2								兼1
	統計学	1後	2						1			
	医療とICT	1前	2						1			
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1,2,3,4後		2								兼1
	健康科学理論	1,2,3,4後		1								兼1
	健康スポーツ実践	1,2,3,4後		1								兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1									兼1
	医学英語Ⅱ	1後	1									兼1
	英語(基礎)	1,2,3,4後		1								兼1
	英語(応用)	1,2,3,4後		1								兼1
	英会話	1,2,3,4後		1								兼1
	韓国語*	1後	2									兼1
	中国語*	1後	2									兼1
小計(31科目)		-	16	29	-	6	1	5	1	2	兼39	
(留学生用)	日本語Ⅰ(未開講)	1-2-3-4後	1									兼1
	日本語Ⅱ(未開講)	1-2-3-4後	1									兼1
	日本語Ⅲ(未開講)	1-2-3-4後	1									兼1
	日本語Ⅳ(未開講)	1-2-3-4後	1									兼1
	小計(4科目)		-	4	-	0	0	0	0	0	0	兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1								兼1
	解剖学Ⅱ	1後	1								兼1
	解剖学実習	1前	1								兼1
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	1後	1					1			兼2
	病理学	1後	1								兼1
	臨床医学概論	1前	2								兼1
	公衆衛生学	1.2.3後		2							兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1
	内科学Ⅱ	2後	1								兼1
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1
	整形外科学Ⅰ	2前	1			1					兼1
	整形外科学Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1			1					兼1
	精神医学Ⅱ	2後	1			1					兼1
	小児科学	2前	1			1					兼1
	老年学	2後	1								兼1
	人間発達学	1前	2								兼1
	臨床心理学概論	2前	2								兼1
	救急医学	2前	1								兼1
	薬理学	1後	1								兼1
	栄養学	1.2.3後		1							兼1
	カウンセリング論	1.2.3前		1							兼1
	リスクマネジメント論	3前		2							兼1
	ケアマネジメント論	1.2.3前		1							兼1
	医用画像診断学	3後	1								兼1
	運動学Ⅰ	1前	1			1					兼1
	運動学Ⅱ	1後	1			1					兼1
	運動生理学	2前	1					1			兼1
	運動学実習	2前	1						1	2	兼1
	リハビリテーション概論	1前	2			1					兼1
	保健医療福祉制度論	1.2.3前		2							兼1
	関連職種連携論	2前	2			1					兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	2			兼8
小計(37科目)	-	-	36	9	-	5	0	2	2	2	兼25

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学Ⅰ	1前	1								兼1
	解剖学Ⅱ	1後	1								兼1
	解剖学実習	1前	1								兼1
	生理学Ⅰ	1前	1								兼1
	生理学Ⅱ	1後	1								兼1
	生理学実習	1後	1					1			兼2
	病理学	1後	1								兼1
	臨床医学概論	1前	2								兼1
	公衆衛生学	1.2.3後		2							兼1
	リハビリテーション医学	1後	1								兼1
	内科学Ⅰ	2前	1								兼1
	内科学Ⅱ	2後	1								兼1
	神経学Ⅰ	2前	1								兼1
	神経学Ⅱ	2後	1								兼1
	整形外科学Ⅰ	2前	1			1					兼1
	整形外科学Ⅱ	2後	1								兼1
	精神医学Ⅰ	2前	1			1					兼1
	精神医学Ⅱ	2後	1			1					兼1
	小児科学	2前	1			1					兼1
	老年学	2後	1								兼1
	人間発達学	1前	2								兼1
	臨床心理学概論	2前	2								兼1
	救急医学	2前	1								兼1
	薬理学	1後	1								兼1
	栄養学	1.2.3後		1							兼1
	カウンセリング論	1.2.3前		1							兼1
	リスクマネジメント論	3前		2							兼1
	ケアマネジメント論	1.2.3前		1							兼1
	医用画像診断学	3後	1								兼1
	運動学Ⅰ	1前	1			1					兼1
	運動学Ⅱ	1後	1			1					兼1
	運動生理学	2前	1					1			兼1
	運動学実習	2前	1						1	2	兼1
	リハビリテーション概論	1前	2			1					兼1
	保健医療福祉制度論	1.2.3前		2							兼1
	関連職種連携論	2前	2			1					兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	2			兼8
小計(37科目)	-	-	36	9	-	5	0	2	2	2	兼25

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教育効果を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「文学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「アジア比較文化論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「英語（基礎）」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「解剖学実習」の配当年次を「1前」から「1通」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
88 科目	32 科目	0 科目	120 科目	88 科目 [0]	32 科目 [0]	0 科目 [0]	120 科目 [0]	変更なし

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当事項なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{120} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他 福祉施設相当分532㎡ 土地面積11,558㎡を建 物延べ床面積で按分		
	校舎敷地	10,280.29㎡	㎡	㎡	10,280.29㎡			
	運動場用地	745.71㎡	㎡	㎡	745.71㎡			
	小 計	11,026.00㎡	㎡	㎡	11,026.00㎡			
	そ の 他	532.00㎡	㎡	㎡	532.00㎡			
	合 計	11,558.00㎡	㎡	㎡	11,558.00㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	10,943.35㎡ (10,943.35㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	10,943.35㎡ (10,943.35㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	3学科で使用		
	19室	1室	26室	1室 (補助職員 1人)	室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			3学科で使用		
	医療学部		個室24、共同4 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	
				電子ジャーナル 〔うち外国書〕				
	医療学部	16,069 [608] (14,583 [317])	104 [11] (104 [11])	8,350 [—] (8,350 [—])	1,145 (1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)	
	計	16,069 [608] (14,583 [317])	104 [11] (104 [11])	8,350 [—] (8,350 [—])	1,145 (1,145)	2,254 (1,145)	19 (19)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	297.71㎡		114席		17,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	1,245.37㎡							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	18,963千円	6,117千円	3,000千円
	共同研究費等	1,000千円	3,000千円	設備購入費	173,151千円	167,438千円	3,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入ほか					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	福岡国際医療福祉大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
医療学部										
理学療法学科	4	40	0	160	学士 (理学療法)	1.22		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
作業療法学科	4	40	0	160	学士 (作業療法)	1.17		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
視能訓練学科	4	40	0	160	学士 (視能訓練)	1		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（専攻科及び別科を除く）。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医療学部 理学療法学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
専	教授 (学長)	北島 栄二 (52) <平成31年4月> 博士(医学)	専	教授 (学長)	北島 栄二 (52) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 職業関連技術学 障害代償学概論 自助具・福祉機器適用論 装具・副子適用論 義肢適用論 バリアフリー論 住環境整備論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 職業関連技術学 障害代償学概論 自助具・福祉機器適用論 装具・副子適用論 義肢適用論 バリアフリー論 住環境整備論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
専	教授	丹羽 敦 (55) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	専	教授	丹羽 敦 (55) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 作業療法概論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション管理論 作業療法総括論 生活機能論 作業療法評価学概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 作業療法概論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション管理論 作業療法総括論 生活機能論 作業療法評価学概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
兼任	講師	丹羽 敦 (54) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	丹羽 敦 (55) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		作業療法概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ			作業療法概論 地域生活支援論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
専	教授	菅原 洋子 (69) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	専	教授	菅原 洋子 (69) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		リハビリテーション概論 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 作業学概論 作業療法応用学概論 作業療法総括論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)			リハビリテーション概論 運動学Ⅰ 運動学Ⅱ 作業学概論 作業療法応用学概論 作業療法総括論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
専	教授	小牧 元 (67) <平成31年4月> 医学博士	専	教授	小牧 元 (67) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理
専	教授	新居見 和彦 (67) <平成32年4月> 博士(医学)	専	教授	新居見 和彦 (66) <平成32年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学
専	教授	尾籠 晃司 (60) <平成31年4月> 医学博士	専	教授	尾籠 晃司 (60) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ
専	教授	副島 修 (59) <平成32年4月> 博士(医学)	専	教授	副島 修 (58) <平成32年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	日田 勝子 (58) <平成34年4月> 博士(学術)	作業療法総括論 小児作業療法Ⅰ(総論) 小児作業療法Ⅱ(各論) 小児作業療法Ⅲ(特論)	専	教授	日田 勝子 (55) <平成34年4月> 博士(学術)	作業療法総括論 小児作業療法Ⅰ(総論) 小児作業療法Ⅱ(各論) 小児作業療法Ⅲ(特論)
兼任	講師	日田 勝子 (57) <平成33年4月> 博士(学術)	小児作業療法Ⅰ(総論) 小児作業療法Ⅱ(各論) 小児作業療法Ⅲ(特論)	兼任	講師	日田 勝子 (55) <平成33年4月> 博士(学術)	小児作業療法Ⅰ(総論) 小児作業療法Ⅱ(各論) 小児作業療法Ⅲ(特論)
専	准教授	松田 隆治 (53) <平成31年4月> 修士(人間科学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業療法総括論 作業療法評価学各論 中枢神経疾患作業療法Ⅰ(総論) 内科系疾患作業療法学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	准教授	松田 隆治 (53) <平成31年4月> 修士(人間科学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業療法総括論 作業療法評価学各論 中枢神経疾患作業療法Ⅰ(総論) 内科系疾患作業療法学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
専	准教授	多賀 誠 (50) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	作業療法総括論 作業療法諸理論 精神疾患作業療法Ⅰ(総論) 精神疾患作業療法Ⅱ(各論) 精神疾患作業療法Ⅲ(特論) コミュニケーション技術論 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	専	准教授	多賀 誠 (49) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	作業療法総括論 作業療法諸理論 精神疾患作業療法Ⅰ(総論) 精神疾患作業療法Ⅱ(各論) 精神疾患作業療法Ⅲ(特論) コミュニケーション技術論 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	中園 寿人 (37) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 運動生理学 関連職種連携ワーク 作業工程技術学・基礎論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業療法総括論 作業工程技術学・応用論 高次脳機能評価法 高次脳機能障害作業療法学 作業療法適用学概論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	講師	中園 寿人 (37) <平成31年4月> 博士(医学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 運動生理学 関連職種連携ワーク 作業工程技術学・基礎論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業療法総括論 作業工程技術学・応用論 高次脳機能評価法 高次脳機能障害作業療法学 作業療法適用学概論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
専	講師	佐野 伸之 (32) <平成31年4月> 博士(保健学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 老年期作業療法学 作業療法総括論 作業分析学Ⅰ(基礎) 作業分析学Ⅱ(応用) 中枢神経疾患作業療法Ⅱ(各論) 生活技術学Ⅰ(総論) 生活技術学Ⅱ(各論) 地域生活作業療法論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	講師	佐野 伸之 (32) <平成31年4月> 博士(保健学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 老年期作業療法学 作業療法総括論 作業分析学Ⅰ(基礎) 作業分析学Ⅱ(応用) 中枢神経疾患作業療法Ⅱ(各論) 生活技術学Ⅰ(総論) 生活技術学Ⅱ(各論) 地域生活作業療法論 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
専	助教	木村 まり子 (49) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ	専	助教	木村 まり子 (48) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
兼任	講師	木村 まり子 (48) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ	兼任	講師	木村 まり子 (48) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専任	助教	吉田 亮平 (40) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	専任	助教	吉田 亮平 (39) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学実習 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業療法総論 基礎運動機能評価法 作業療法評価学演習 中枢神経疾患作業療法学Ⅲ(特論) 運動器疾患作業療法学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 運動学実習 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業療法総論 基礎運動機能評価法 作業療法評価学演習 中枢神経疾患作業療法学Ⅲ(特論) 運動器疾患作業療法学 基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ 地域作業療法実習 検査・測定実習 評価実習 総合実習Ⅰ 総合実習Ⅱ
兼任	助教	吉田 亮平 (39) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	兼任	助教	吉田 亮平 (39) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ			基礎実習Ⅰ 基礎実習Ⅱ
兼任	教授(学長)	今泉 勉 (71) <平成31年4月> 医学博士	兼任	教授(学長)	今泉 勉 (71) <平成31年4月> 医学博士
		リスクマネジメント論 臨床医学概論			リスクマネジメント論 臨床医学概論
兼任	教授(副学長)	丸山 仁司 (69) <平成32年4月> 工学修士 医学博士	兼任	教授(副学長)	丸山 仁司 (68) <平成32年4月> 工学修士 医学博士
		リハビリテーション管理論			リハビリテーション管理論
兼任	教授(学長)	終 幸伸 (59) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	兼任	教授(学長)	終 幸伸 (59) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 関連職種連携論			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 関連職種連携論
兼任	教授(学長)	吉富 健志 (63) <平成31年4月> 医学博士	兼任	教授(学長)	吉富 健志 (63) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座
兼任	教授	諫山 照刀 (68) <平成32年4月> 医学博士	兼任	教授	諫山 照刀 (67) <平成32年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)			海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	財津 裕一 (65) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	教授	財津 裕一 (65) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 社会保障制度論 公衆衛生学 保健医療福祉制度論			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 社会保障制度論 公衆衛生学 保健医療福祉制度論
兼任	教授	堀川 悦夫 (65) <平成32年4月> 博士(学術)(医学)	兼任	教授	堀川 悦夫 (65) <平成32年4月> 博士(学術)(医学)
		心理学 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 老年学 臨床心理学概論 カウンセリング論			心理学 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 老年学 臨床心理学概論 カウンセリング論
兼任	講師	堀川 悦夫 (64) <平成31年4月> 博士(学術)(医学)	兼任	講師	堀川 悦夫 (65) <平成31年4月> 博士(学術)(医学)
		心理学 カウンセリング論			心理学 カウンセリング論
兼任	教授	森 望 (65) <平成31年4月> 薬学博士	兼任	教授	森 望 (65) <平成31年4月> 薬学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学Ⅱ 薬理学			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学Ⅱ 薬理学
兼任	教授	小坂 克子 (64) <平成31年4月> 歯学博士	兼任	教授	小坂 克子 (64) <平成31年4月> 歯学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	飛松 省三 (65) <平成32年4月> 医学博士	兼任	教授	飛松 省三 (64) <平成32年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 神経学Ⅰ 神経学Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 神経学Ⅰ 神経学Ⅱ
兼任	講師	飛松 省三 (64) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	飛松 省三 (64) <平成31年4月> 医学博士
		生理学実習			生理学実習
兼任	教授	黒岩 俊郎 (64) <平成32年4月> 医学博士	兼任	教授	黒岩 俊郎 (63) <平成32年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 医用画像診断学			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 医用画像診断学
兼任	教授	佐伯 和彦 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	教授	佐伯 和彦 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 整形外科Ⅱ
兼任	教授	田川 辰也 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	教授	田川 辰也 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学Ⅰ 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学Ⅰ 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ
兼任	准教授	松藤 佳名子 (57) <平成32年4月> 修士(文学)	兼任	准教授	松藤 佳名子 (56) <平成32年4月> 修士(文学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	准教授	宇野 宏一 (46) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	宇野 宏一 (46) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)			海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	玉利 誠 (43) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	兼任	准教授	玉利 誠 (43) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)			海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	橋本 勇希 (33) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	准教授	橋本 勇希 (33) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐々木 信 (48) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	佐々木 信 (48) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	吉村 美香 (46) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	吉村 美香 (45) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	山之口 稔隆 (39) <平成31年4月> 修士(医療経営管理学)	兼任	講師	山之口 稔隆 (39) <平成31年4月> 修士(医療経営管理学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 統計学 医療とICT 生理学実習			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 統計学 医療とICT 生理学実習
兼任	講師	吉塚 久記 (39) <平成32年4月> 修士(医科学)	兼任	講師	吉塚 久記 (38) <平成32年4月> 修士(医科学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	光武 翼 (34) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	光武 翼 (34) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	藤田 大輔 (33) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	藤田 大輔 (31) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	助教	志岐 早苗 (45) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	助教	志岐 早苗 (45) <平成31年4月> 修士(文学)
		コミュニケーション概論 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 医学英語Ⅰ 医学英語Ⅱ 英語(基礎) 英語(応用) 英会話			コミュニケーション概論 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 医学英語Ⅰ 医学英語Ⅱ 英語(基礎) 英語(応用) 英会話
兼任	助教	王 美蘭 (45) <平成31年4月> 博士(法学)	兼任	助教	王 美蘭 (45) <平成31年4月> 博士(法学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 法学 中国語			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 法学 中国語
兼任	助教	潮井川 修一 (42) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	兼任	助教	潮井川 修一 (41) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論 関連職種連携ワーク
兼任	助教	谷口 隆憲 (36) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	兼任	助教	谷口 隆憲 (35) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)			海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士(経済学)
		経済学			経済学
兼任	講師	今井 克己 (60) <平成31年4月> 博士(保健学)	兼任	講師	今井 克己 (61) <平成31年4月> 博士(保健学)
		栄養学			栄養学
兼任	講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育学			教育学
兼任	講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士(生物学)	兼任	講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士(生物学)
		生物学			生物学
兼任	講師	後藤 純信 (58) <平成32年4月> 博士(医学)	兼任	講師	後藤 純信 (57) <平成32年4月> 博士(医学)
		救急医学			救急医学
兼任	講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士(理学)	兼任	講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士(理学)
		生理学Ⅰ			生理学Ⅰ
兼任	講師	石橋 英恵 (56) <平成32年4月> Master of Occupational Therapy	兼任	講師	石橋 英恵 (55) <平成32年4月> Master of Occupational Therapy
		作業応用論			作業応用論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士(理学)	兼任	講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士(理学)
		物理学			物理学
兼任	講師	新川 寿子 (51) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	新川 寿子 (51) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		人間発達学			人間発達学
兼任	講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	兼任	講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)
		社会学			社会学
兼任	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士(文学)	兼任	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士(文学)
		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ			日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語Ⅲ 日本語Ⅳ
兼任	講師	村木 里志 (49) <平成31年4月> 博士(学術)	兼任	講師	村木 里志 (49) <平成31年4月> 博士(学術)
		人間工学			人間工学
兼任	講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)	兼任	講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)
		ケアマネジメント論			ケアマネジメント論
兼任	講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士(経済学)
		国際医療福祉論			国際医療福祉論
兼任	講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士(人文科学)	兼任	講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士(人文科学)
		哲学			哲学
兼任	講師	杉原 浩郎 (43) <平成31年4月> 修士(異文化コミュニケーション学)			
		アジア比較文化論			
			兼任	講師	福井 謙 (47) <平成31年4月> 修士(学術)
					アジア比較文化論
兼任	講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション医学			リハビリテーション医学
兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)
		ボランティア論			ボランティア論
兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)
		文学			文学
兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)
		倫理学			倫理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	表 永珍 (37) <平成31年4月> 修士(芸術工学)			
		韓国語			
			兼任	講師	貴 慶旭 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)
					韓国語
兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)
		健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

本務校の都合により杉原活郎講師（兼任）の担当が難しくなったため、福井譲講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
本人の都合により裏永珍講師（兼任）の担当が難しくなったため、黄慶旭講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
8	2	2	2	14	4	1	2	0	7
(4)	(1)	(2)	(0)	(7)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
8	2	2	2	14	8	2	2	2	14
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	2	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{14}{14} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{7} = \boxed{28.57} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	—	科目	必修	—	必修	—	必修	—
		選択	—	科目	選択	—	選択	—	選択	—
		自由	—	科目	自由	—	自由	—	自由	—
		計	—	科目	計	—	計	—	計	—

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	—	科目	必修	—	必修	—	必修	—
		選択	—	科目	選択	—	選択	—	選択	—
		自由	—	科目	自由	—	自由	—	自由	—
		計	—	科目	計	—	計	—	計	—

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	—	科目	必修	—	必修	—	必修	—
		選択	—	科目	選択	—	選択	—	選択	—
		自由	—	科目	自由	—	自由	—	自由	—
		計	—	科目	計	—	計	—	計	—

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{14} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	- 科目	必修	- 科目	必修	- 科目
		選択	- 科目	選択	- 科目	選択	- 科目
		自由	- 科目	自由	- 科目	自由	- 科目
		計	- 科目	計	- 科目	計	- 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
設 置 時 (30年8月)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 設置の趣旨・目的を十分に踏まえ、設置計画を確実に履行するための運営組織を整えて教育研究活動を開始した。4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うため、学長は、教授会を始め諸会議体を通じて教育目標、カリキュラムの体系等について合意形成を図っている。	履行中
設 置 時 (30年8月)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 高い教育水準を達成するため、優れた教育研究能力を有する教員を配置したことから、開設当初は2名の教員が定年規程の退職年齢を超えている。また、完成年度には3名の教員が退職年齢を超えることとなる。これらの教員は、定年延長に関する内規の適用を受けるものであるが、完成年度後に定年を迎える教員も含め、教育研究の水準を維持しつつ教員年齢のバランスに配慮し、中長期的視野に立った人事計画を策定し教員組織を整備することとしている。	履行中

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療学部 作業療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD活動に関しては、福岡国際医療福祉大学FD委員会を設置して取り組むこととしている。また、当面は、SDについてもこの委員会での審議に基づき、取組みを展開することとしている。なお、実際の教育運営は教務委員会での検討事項であり、FD委員会は教務委員会と連携し、教育の質の向上を目指すものである。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>2019年5月より開始予定。毎月第2水曜日実施予定。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学の設置の趣旨、教育目標の確認 ・ 本年度のFD及びSD活動の基本方針について ・ 授業評価アンケートについて ・ 授業方法についての研究会について <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>今後、次のことを実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新任教員研修 ・ 授業方法についての研究会 ・ 授業評価アンケート <p>なお、平成30年8月15日～16日（設置認可前）に就任予定の教職員を集め、以下の内容で合宿研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡国際医療福祉大学の設置構想について ・ 各学科の教育内容について ・ リハビリテーションの現況について ・ コンプライアンス（セクハラ、パワハラ、アカハラ等）について <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD研修会を開催し、教育内容及び教育方法の向上の研修を行う。 ・ 教務委員会で適正な成績評価基準の在り方等を検討、実施し、FD委員会で検証する。 ・ 学外で開催されるFD研修会に参加した教員の知見を教授会、教務委員会等で報告し情報共有を図る。 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>年に数回のFD研修（全教員の参加を義務付ける。）開催のほか、テーマを設定した上で全教職員による研修会を開催する。</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD研修を通じて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用する。 <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>毎学期の終盤にすべての授業科目で学生による評価アンケートを実施する。アンケートは事務部学務課において集計し、学長へ報告する。</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>事務部学務課において集計したアンケート結果は、FD委員会で分析した上、各教員へ返却する。学生には、結果全体の報告書を学生ポータルサイトに掲載する。</p>
--

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

- c 委員会の審議事項等

該当なし

- d その他

該当なし

② 審議状況

- a 審議した内容

該当なし

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すとともに、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深い教養および総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を養成し、地域医療はもとより国際社会にも貢献し得る有能な人材を養成することを目的に設置された。

開学後の4月より医療者としての素養が育まれる教育が行われている。現状においても質の高い授業が行われており、総合教育科目の、「医療とICT」「社会保障制度論」「医学英語Ⅰ」において、科学的・論理的思考力を身に付け、国際化に対応できる視点を養う学修をしている。専門基礎科目では、「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」「臨床医学概論」「リハビリテーション概論」において保健医療福祉とリハビリテーションの理念を学修し、専門科目の「作業療法概論」において、基礎作業療法学について学修している。なお、後期には、建学の精神に沿う「生命倫理」が開講される。

設置の趣旨・目的を達成するための、幅広い教養、豊かな人間性、保健医療に関する基礎知識の獲得ができていくものと捉えている。

② 自己点検・評価報告書

- a 公表（予定）時期

・設置初年度（2019年度）及び翌年度（2020年度）の2年間の教育研究活動を総括し、2021年5月公表予定。

- b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

・完成年度（2022年度）後、適切な時期に受審の予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 2019 年 9 月 30 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ 該当なし ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人高木学園

(2) 大学名

福岡国際医療福祉大学医療学部視能訓練学科

(3) 調査対象大学等の位置

〒814-0001
福岡県福岡市早良区百道浜3丁目6-40

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タカギ クニノリ) 高木 邦格 (平成11年2月)		
学長	(イマイズミ ツトム) 今泉 勉 (平成31年4月)		
学部長			
学科長等	(ヨシトミ タケシ) 吉富 健志 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)
令和元年度に報告する内容 → (元)
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 - ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 - ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
医療学部 視能訓練学科 学士（視能訓練学）	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）	年 4	人 40	年次 人 0	人 160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	40人 (-) [若干名]	- 人	人	人	人	人	人	人	1.00倍	—	
志願者数	65 (-) [-]	-	()	()	()	()	()	()			
受験者数	64 (-) [-]	-	()	()	()	()	()	()			
合格者数	45 (-) [-]	-	()	()	()	()	()	()			
B 入学者数	40 (-) [-]	-	()	()	()	()	()	()			
入学定員超過率 B/A	1.00										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	40 [-] (-)	- [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
4年次	/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計			40 [-] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	136 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{136} = \boxed{0} \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<医療学部 視能訓練学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2			1						兼1
	1.2.3.48			1								兼1
	倫理学	1.2.3.48		1								兼1
	文学	1.2.3.48		1								兼1
	教育学	1.2.3.48		2								兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.48		2					1			兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前-1後	2			5	3	1	3			兼26
	アジア比較文化論	1.2.3.48		1								兼1
	法学	1.2.3.48		1						1		兼1
	経済学	1.2.3.48		1								兼1
	社会学	1.2.3.48		1								兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.48		2								兼1
	社会保障制度論	1前	2			1						兼1
	ボランティア論	1.2.3.48		1								兼1
	生物学	1.2.3.48		2								兼1
	物理学	1.2.3.48		2								兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2									兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1.2.3.48		2								兼1
	健康科学理論	1.2.3.48		1								兼1
	健康スポーツ実践	1.2.3.48		1								兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1							1		兼1
	医学英語Ⅱ	1後	1							1		兼1
英語(基礎)	1.2.3.48		1						1		兼1	
英語(応用)	1.2.3.48		1						1		兼1	
英会話	1.2.3.48		1						1		兼1	
韓国語*	1後	2									兼1	
中国語*	1後	2							1		兼1	
小計(31科目)		-	16	29	-	5	3	1	3	0	兼40	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1-2-3-48	1									兼1
	日本語Ⅱ	1-2-3-48	1									兼1
	日本語Ⅲ	1-2-3-48	1									兼1
	日本語Ⅳ	1-2-3-48	1									兼1
	小計(4科目)		-	4	-	0	0	0	0	0	0	兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2			1						兼1
	1.2.3.48			1								兼1
	倫理学	1.2.3.48		1								兼1
	文学	1.2.3.48		1								兼1
	教育学	1.2.3.48		2								兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.48		2						1		兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前-1後	2			5	3	1	3			兼26
	アジア比較文化論	1.2.3.48		1								兼1
	法学	1.2.3.48		1						1		兼1
	経済学	1.2.3.48		1								兼1
	社会学	1.2.3.48		1								兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.48		2								兼1
	社会保障制度論	1前	2			1						兼1
	ボランティア論	1.2.3.48		1								兼1
	生物学	1.2.3.48		2								兼1
	物理学	1.2.3.48		2								兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2									兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1.2.3.48		2								兼1
	健康科学理論	1.2.3.48		1								兼1
	健康スポーツ実践	1.2.3.48		1								兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1							1		兼1
	医学英語Ⅱ	1後	1							1		兼1
英語(基礎)	1.2.3.48		1						1		兼1	
英語(応用)	1.2.3.48		1						1		兼1	
英会話	1.2.3.48		1						1		兼1	
韓国語*	1後	2									兼1	
中国語*	1後	2							1		兼1	
小計(31科目)		-	16	29	-	5	3	1	3	0	兼40	
(留学生用)	日本語Ⅰ(未開講)	1-2-3-48	1									兼1
	日本語Ⅱ(未開講)	1-2-3-48	1									兼1
	日本語Ⅲ(未開講)	1-2-3-48	1									兼1
	日本語Ⅳ(未開講)	1-2-3-48	1									兼1
	小計(4科目)		-	4	-	0	0	0	0	0	0	兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学	1前	1			1							兼1
	生理学 I	1前	1										兼1
	生理学 II	1後	1			1							兼2
	生理学実習	1後	1			1							兼1
	病理学	1後	1										兼1
	臨床医学概論	1前	2										兼1
	公衆衛生学	1,2,3後		2		1							
	リハビリテーション医学	1後	1										兼1
	内科学 I	2前	1										兼1
	内科学 II	2後	1										兼1
	神経学 I	2前	1			1							
	神経学 II	2後	1			1							
	精神医学 I	2前	1										兼1
	精神医学 II	2,3後		1									兼1
	小児科学	2前	1										兼1
	老年学	2後	1			1							
	視機能概論	1前	1				1						
	視器解剖病態学 I	1後	1			1							
	視器解剖病態学 II	3前	1			1							
	生理光学 I	1前	1										兼1
	生理光学 II	2後	1										兼1
	生理光学 III	1前	1							1			
	視覚生理学 I	1後	1			1							
	視覚生理学 II	3前	1										兼1
	人間発達学	1前	2										兼1
	臨床心理学概論	2前	2			1							
	救急医学	2,3前		1									兼1
	薬理学	1,2,3後		1		1							
	栄養学	1,2,3後		1									兼1
	カウンセリング論	1,2,3前		1		1							
	リスクマネジメント論	3前		2									兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1									兼1
	リハビリテーション概論	1前	2										兼1
	保健医療福祉制度論	1,2,3前		2		1							
	関連職種連携論	2前	2			1							兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1				兼8
	保育	1後	2										兼1
	コミュニケーション技術 I (手話)	1前	1										兼1
	コミュニケーション技術 II (点字)	2後	1										兼1
小計(39科目)	-		35	13	0	5	2	1	1	0		兼27	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学	1前	1			1							兼1
	生理学 I	1前	1										兼1
	生理学 II	1後	1			1							兼2
	生理学実習	1後	1			1							兼1
	病理学	1後	1										兼1
	臨床医学概論	1前	2										兼1
	公衆衛生学	1,2,3後		2		1							
	リハビリテーション医学	1後	1										兼1
	内科学 I	2前	1										兼1
	内科学 II	2後	1										兼1
	神経学 I	2前	1			1							
	神経学 II	2後	1			1							
	精神医学 I	2前	1										兼1
	精神医学 II	2,3後		1									兼1
	小児科学	2前	1										兼1
	老年学	2後	1			1							
	視機能概論	1前	1				1						
	視器解剖病態学 I	1後	1			1							
	視器解剖病態学 II	3前	1			1							
	生理光学 I	1前	1										兼1
	生理光学 II	2後	1										兼1
	生理光学 III	1前	1							1			
	視覚生理学 I	1後	1			1							
	視覚生理学 II	3前	1										兼1
	人間発達学	1前	2										兼1
	臨床心理学概論	2前	2			1							
	救急医学	2,3前		1									兼1
	薬理学	1,2,3後		1		1							
	栄養学	1,2,3後		1									兼1
	カウンセリング論	1,2,3前		1		1							
	リスクマネジメント論	3前		2									兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1									兼1
	リハビリテーション概論	1前	2										兼1
	保健医療福祉制度論	1,2,3前		2		1							
	関連職種連携論	2前	2			1							兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1				兼8
	保育	1後	2										兼1
	コミュニケーション技術 I (手話)	1前	1										兼1
	コミュニケーション技術 II (点字)	2後	1										兼1
小計(39科目)	-		35	13	0	5	2	1	1	0		兼27	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2									兼1
	視能矯正学総論Ⅰ	3後	1				1					
	視能矯正学総論Ⅱ	4後	1						1			
	視覚情報処理Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理Ⅲ	3後	1									兼1
	視覚と注意	3後	1									兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1					1			
	視能検査学入門	1前		1					1			
	視能検査学基礎	1後	1					1				
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3前	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1					1			
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1				1					
	視能障害学Ⅳ	3前	1				1					
	視能障害学評価学	3前	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後	1			1						
	視覚と高次脳	3後	1									兼1
	視能障害学実践演習	3後	1				2	1	1	2		
	視能障害学特論	3前		1				1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1				1					
	弱視斜視論Ⅲ	3前	1									兼1
	弱視斜視論Ⅳ	3後	1				1					
	視能訓練学Ⅰ	2後	1					1		2		
	視能訓練学Ⅱ	2後	1				2	1	1	2		
	視能訓練学Ⅲ	3前	1				1					
	ロービジョン学	3前	1						1			
	視覚とヴァーチャルリア	3後		1								兼1
	視能訓練学総合演習	4前	1				2	1	1	2		
	視能訓練学特論	3後		1			1					
	臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2		
	臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2		
	小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2	2	兼13
	合計(117科目)	-	111	51		5	3	1	3	2	2	兼65
	合計(121科目)(留学生)	-	115	51		5	3	1	3	2	2	兼66
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修95単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:60単位)。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。(履修課目の登録の上限49単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2									兼1
	視能矯正学総論Ⅰ	3後	1				1					
	視能矯正学総論Ⅱ	4後	1						1			
	視覚情報処理Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理Ⅲ	3後	1									兼1
	視覚と注意	3後	1									兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1					1			
	視能検査学入門	1前		1					1			
	視能検査学基礎	1後	1					1				
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3前	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1					1			
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1				1					
	視能障害学Ⅳ	3前	1				1					
	視能障害学評価学	3前	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後	1			1						
	視覚と高次脳	3後	1									兼1
	視能障害学実践演習	3後	1				2	1	1	2		
	視能障害学特論	3前		1				1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1				1					
	弱視斜視論Ⅲ	3前	1									兼1
	弱視斜視論Ⅳ	3後	1				1					
	視能訓練学Ⅰ	2後	1					1		2		
	視能訓練学Ⅱ	2後	1				2	1	1	2		
	視能訓練学Ⅲ	3前	1				1					
	ロービジョン学	3前	1						1			
	視覚とヴァーチャルリア	3後		1								兼1
	視能訓練学総合演習	4前	1				2	1	1	2		
	視能訓練学特論	3後		1			1					
	臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2		
	臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2		
	小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2	2	兼13
	合計(117科目)	-	111	51		5	3	1	3	2	2	兼65
	合計(121科目)(留学生)	-	115	51		5	3	1	3	2	2	兼66
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修95単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:60単位)。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。(履修課目の登録の上限49単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなくなったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教育効果を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「文学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「アジア比較文化論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「英語（基礎）」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
77 科目	40 科目	0 科目	117 科目	77 科目 [0]	40 科目 [0]	0 科目 [0]	117 科目 [0]	変更なし

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

2 授業科目の概要

<医療学部 視能訓練学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2			1						兼1
	1.2.3.48			1								兼1
	倫理学	1.2.3.48		1								兼1
	文学	1.2.3.48		1								兼1
	教育学	1.2.3.48		2								兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.48		2					1			兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前・後	2			5	3	1	3			兼26
	アジア比較文化論	1.2.3.48		1								兼1
	法学	1.2.3.48		1						1		兼1
	経済学	1.2.3.48		1								兼1
	社会学	1.2.3.48		1								兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.48		2								兼1
	社会保障制度論	1前	2			1						兼1
	ボランティア論	1.2.3.48		1								兼1
	生物学	1.2.3.48		2								兼1
	物理学	1.2.3.48		2								兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2									兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1.2.3.48		2								兼1
	健康科学理論	1.2.3.48		1								兼1
	健康スポーツ実践	1.2.3.48		1								兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1							1		兼1
	医学英語Ⅱ	1後	1							1		兼1
英語(基礎)	1.2.3.48		1						1		兼1	
英語(応用)	1.2.3.48		1						1		兼1	
英会話	1.2.3.48		1						1		兼1	
韓国語*	1後	2									兼1	
中国語*	1後	2							1		兼1	
小計(31科目)		-	16	29	-	5	3	1	3	0	兼40	
(留学生用)	日本語Ⅰ	1・2・3・48	1									兼1
	日本語Ⅱ	1・2・3・48	1									兼1
	日本語Ⅲ	1・2・3・48	1									兼1
	日本語Ⅳ	1・2・3・48	1									兼1
	小計(4科目)		-	4	-	0	0	0	0	0	0	兼1

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	心理学	1前	2			1						兼1
	1.2.3.48			1								兼1
	倫理学	1.2.3.48		1								兼1
	文学	1.2.3.48		1								兼1
	教育学	1.2.3.48		2								兼1
	コミュニケーション概論	1.2.3.48		2					1			兼1
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2前	1									兼1
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2.3前・後	2			5	3	1	3			兼26
	アジア比較文化論	1.2.3.48		1								兼1
	法学	1.2.3.48		1						1		兼1
	経済学	1.2.3.48		1								兼1
	社会学	1.2.3.48		1								兼1
	国際医療福祉論	1.2.3.48		2								兼1
	社会保障制度論	1前	2			1						兼1
	ボランティア論	1.2.3.48		1								兼1
	生物学	1.2.3.48		2								兼1
	物理学	1.2.3.48		2								兼1
	統計学	1後	2									兼1
	医療とICT	1前	2									兼1
	生命倫理	1後	2									兼1
	人間工学	1.2.3.48		2								兼1
	健康科学理論	1.2.3.48		1								兼1
	健康スポーツ実践	1.2.3.48		1								兼1
	大学入門講座	1前	1			1						兼2
	医学英語Ⅰ	1前	1							1		兼1
	医学英語Ⅱ	1後	1							1		兼1
英語(基礎)	1.2.3.48		1						1		兼1	
英語(応用)	1.2.3.48		1						1		兼1	
英会話	1.2.3.48		1						1		兼1	
韓国語*	1後	2									兼1	
中国語*	1後	2							1		兼1	
小計(31科目)		-	16	29	-	5	3	1	3	0	兼40	
(留学生用)	日本語Ⅰ(未開講)	1・2・3・48	1									兼1
	日本語Ⅱ(未開講)	1・2・3・48	1									兼1
	日本語Ⅲ(未開講)	1・2・3・48	1									兼1
	日本語Ⅳ(未開講)	1・2・3・48	1									兼1
	小計(4科目)		-	4	-	0	0	0	0	0	0	兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学	1前	1			1						兼1
	生理学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理学Ⅱ	1後	1			1						兼2
	生理学実習	1後	1			1						兼1
	病理学	1後	1									兼1
	臨床医学概論	1前	2									兼1
	公衆衛生学	1,2,3後		2		1						
	リハビリテーション医学	1後	1									兼1
	内科学Ⅰ	2前	1									兼1
	内科学Ⅱ	2後	1									兼1
	神経学Ⅰ	2前	1			1						
	神経学Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1									兼1
	精神医学Ⅱ	2,3後		1								兼1
	小児科学	2前	1									兼1
	老年学	2後	1			1						
	視機能概論	1前	1				1					
	視器解剖病態学Ⅰ	1後	1			1						
	視器解剖病態学Ⅱ	3前	1			1						
	生理光学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理光学Ⅱ	2前	1									兼1
	生理光学Ⅲ	2後	1						1			
	視覚生理学Ⅰ	1後	1			1						
	視覚生理学Ⅱ	2前	1									兼1
	人間発達学	1前	2									兼1
	臨床心理学概論	2前	2			1						
	救急医学	2,3前		1								兼1
	薬理学	1,2,3後		1		1						
	栄養学	1,2,3後		1								兼1
	カウンセリング論	1,2,3前		1		1						
	リスクマネジメント論	3前		2								兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1								兼1
	リハビリテーション概論	1前	2									兼1
	保健医療福祉制度論	1,2,3前		2		1						
	関連職種連携論	2前	2			1						兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1			兼8
	保育	1後	2									兼1
	コミュニケーション技術Ⅰ(手話)	1前	1									兼1
	コミュニケーション技術Ⅱ(点字)	2後	1									兼1
小計(39科目)	-		35	13	0	5	2	1	1	0	兼27	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教	准教	講	助	助		
専門教育科目（専門基礎科目）	解剖学	1前	1			1						兼1
	生理学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理学Ⅱ	1後	1			1						兼2
	生理学実習	1後	1			1						兼1
	病理学	1後	1									兼1
	臨床医学概論	1前	2									兼1
	公衆衛生学	1,2,3後		2		1						
	リハビリテーション医学	1後	1									兼1
	内科学Ⅰ	2前	1									兼1
	内科学Ⅱ	2後	1									兼1
	神経学Ⅰ	2前	1			1						
	神経学Ⅱ	2後	1			1						
	精神医学Ⅰ	2前	1									兼1
	精神医学Ⅱ	2,3後		1								兼1
	小児科学	2前	1									兼1
	老年学	2後	1			1						
	視機能概論	1前	1				1					
	視器解剖病態学Ⅰ	1後	1			1						
	視器解剖病態学Ⅱ	3前	1			1						
	生理光学Ⅰ	1前	1									兼1
	生理光学Ⅱ	2前	1									兼1
	生理光学Ⅲ	2後	1						1			
	視覚生理学Ⅰ	1後	1			1						
	視覚生理学Ⅱ	2前	1									兼1
	人間発達学	1前	2									兼1
	臨床心理学概論	2前	2			1						
	救急医学	2,3前		1								兼1
	薬理学	1,2,3後		1		1						
	栄養学	1,2,3後		1								兼1
	カウンセリング論	1,2,3前		1		1						
	リスクマネジメント論	3前		2								兼1
	ケアマネジメント論	1,2,3前		1								兼1
	リハビリテーション概論	1前	2									兼1
	保健医療福祉制度論	1,2,3前		2		1						
	関連職種連携論	2前	2			1						兼2
	関連職種連携ワーク	3前	1				2	1	1			兼8
	保育	1後	2									兼1
	コミュニケーション技術Ⅰ(手話)	1前	1									兼1
	コミュニケーション技術Ⅱ(点字)	2後	1									兼1
小計(39科目)	-		35	13	0	5	2	1	1	0	兼27	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2									兼1
	視能矯正学総論Ⅰ	3後	1				1					
	視能矯正学総論Ⅱ	4後	1						1			
	視覚情報処理Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理Ⅲ	3後	1									兼1
	視覚と注意	3後	1									兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1					1			
	視能検査学入門	1前		1					1			
	視能検査学基礎	1後	1					1				
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3前	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1					1			
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1				1					
	視能障害学Ⅳ	3前	1				1					
	視能障害学評価学	3前	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後	1			1						
	視覚と高次脳	3後	1									兼1
	視能障害学実践演習	3後	1				2	1	1	2		
	視能障害学特論	3前		1				1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1				1					
	弱視斜視論Ⅲ	3前	1									兼1
	弱視斜視論Ⅳ	3後	1				1					
	視能訓練学Ⅰ	2後	1					1		2		
	視能訓練学Ⅱ	2後	1				2	1	1	2		
	視能訓練学Ⅲ	3前	1				1					
	ロービジョン学	3前	1						1			
	視覚とヴァーチャルリア	3後		1								兼1
	視能訓練学総合演習	4前	1				2	1	1	2		
	視能訓練学特論	3後		1			1					
	臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2		
	臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2		
	小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2	2	兼13
	合計(117科目)	-	111	51		5	3	1	3	2	2	兼65
	合計(121科目)(留学生)	-	115	51		5	3	1	3	2	2	兼66
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修95単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:60単位)。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。(履修課目の登録の上限49単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	視能矯正学Ⅰ	2前	2									兼1
	視能矯正学Ⅱ	2前	2									兼1
	視能矯正学総論Ⅰ	3後	1				1					
	視能矯正学総論Ⅱ	4後	1						1			
	視覚情報処理Ⅰ	2後	1									兼1
	視覚情報処理Ⅱ	3前	1									兼1
	視覚情報処理Ⅲ	3後	1									兼1
	視覚と注意	3後	1									兼1
	眼科診療学	3後	1			1						
	卒業研究Ⅰ	3前	2			1	3	1	1			
	卒業研究Ⅱ	4後	2			1	3	1	1			
	視能矯正学特論	3前		1					1			
	視能検査学入門	1前		1					1			
	視能検査学基礎	1後	1					1				
	視能検査学Ⅰ	2前	2								2	兼1
	視能検査学Ⅱ	2後	2								2	兼1
	視能検査学Ⅲ	2後	2				2	1	1	2		
	視能検査学Ⅳ	2後	2				2	1	1	2		
	屈折矯正の実際	3前	1									兼1
	視覚と画像解析	3前	1			1						
	視能検査学総合演習Ⅰ	3前	1				2	1	1	2		
	視能検査学総合演習Ⅱ	4前	1				2	1	1	2		
	視能検査学特論	3前		1					1			
	視能障害学Ⅰ	2前	1									兼1
	視能障害学Ⅱ	2前	1			1						
	視能障害学Ⅲ	2後	1				1					
	視能障害学Ⅳ	3前	1				1					
	視能障害学評価学	3前	1									兼1
	研究と文献Ⅰ	3前	1			1						
	研究と文献Ⅱ	3後	1			1						
	視覚と高次脳	3後	1									兼1
	視能障害学実践演習	3後	1				2	1	1	2		
	視能障害学特論	3前		1				1				
	弱視斜視論基礎	2前	1					1				
	弱視斜視論Ⅰ	2後	1					1				
	弱視斜視論Ⅱ	2後	1				1					
	弱視斜視論Ⅲ	3前	1									兼1
	弱視斜視論Ⅳ	3後	1				1					
	視能訓練学Ⅰ	2後	1					1		2		
	視能訓練学Ⅱ	2後	1				2	1	1	2		
	視能訓練学Ⅲ	3前	1				1					
	ロービジョン学	3前	1						1			
	視覚とヴァーチャルリア	3後		1								兼1
	視能訓練学総合演習	4前	1				2	1	1	2		
	視能訓練学特論	3後		1			1					
	臨地実習Ⅰ	3後	5			1	2	1	1	2		
	臨地実習Ⅱ	4前	11			1	2	1	1	2		
	小計(47科目)	-	60	9	-	1	3	1	1	2	2	兼13
	合計(117科目)	-	111	51		5	3	1	3	2	2	兼65
	合計(121科目)(留学生)	-	115	51		5	3	1	3	2	2	兼66
卒業要件及び履修方法												
卒業要件124単位以上 総合教育科目:必修16単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位)。これ以外に総合教育科目から5単位以上選択(「韓国語」「中国語」より2単位以上選択必修含む。)。留学生は、必修20単位(人間系:2単位、社会系:5単位、自然・情報系:6単位、総合系:1単位、外国語系:2単位、日本語科目:4単位)。これ以外に総合教育科目から1単位以上選択。 専門教育科目:必修95単位(専門基礎科目:35単位、専門科目:60単位)。これ以外に専門教育科目全体から8単位以上選択。(履修課目の登録の上限49単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなくなったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教育効果を考慮し、「哲学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「文学」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「アジア比較文化論」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。
- ・教育効果を考慮し、「英語（基礎）」の配当年次を「1,2,3,4前」から「1,2,3,4後」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
77 科目	40 科目	0 科目	117 科目	77 科目 [0]	40 科目 [0]	0 科目 [0]	117 科目 [0]	変更なし

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当事項なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{117} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	その他 福祉施設相当分532㎡ 土地面積11,558㎡を建 物延べ床面積で按分		
	校舎敷地	10,280.29㎡	㎡	㎡	10,280.29㎡			
	運動場用地	745.71㎡	㎡	㎡	745.71㎡			
	小 計	11,026.00㎡	㎡	㎡	11,026.00㎡			
	そ の 他	532.00㎡	㎡	㎡	532.00㎡			
	合 計	11,558.00㎡	㎡	㎡	11,558.00㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	10,943.35㎡ (10,943.35㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	10,943.35㎡ (10,943.35㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	3学科で使用		
	19室	1室	26室	1室 (補助職員 1人)	室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			3学科で使用		
	医療学部		個室24、共同4 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	
		〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕				点
	医療学部	16,069 [608] (14,583 [317])	104 [11] (104 [11])	8,350 [—] (8,350 [—])	1,145 (1,145)	2,254 (2,254)	19 (19)	
	計	16,069 [608] (14,583 [317])	104 [11] (104 [11])	8,350 [—] (8,350 [—])	1,145 (1,145)	2,254 (1,145)	19 (19)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	297.71㎡		114席		17,000冊			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	1,245.37㎡							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	18,963千円	6,117千円	3,000千円
		共同研究費等	1,000千円	3,000千円	設備購入費	173,151千円	167,438千円	3,000千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	— 千円	— 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入ほか					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	福岡国際医療福祉大学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
医療学部										
理学療法学科	4	40	0	160	学士 (理学療法学)	1.22		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
作業療法学科	4	40	0	160	学士 (作業療法学)	1.17		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	
視能訓練学科	4	40	0	160	学士 (視能訓練学)	1		平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-40	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<医療学部 視能訓練学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名
専任	教授(学科長)	吉富 健志 (63) <平成31年4月> 医学博士	専任	教授(学科長)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 視器解剖病態学Ⅰ 視覚生理学Ⅰ 眼科診療学 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視覚と画像解析 視能障害学Ⅱ 研究と文献Ⅰ 研究と文献Ⅱ 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ		
専任	教授	財津 裕一 (65) <平成31年4月> 医学博士	専任	教授
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 社会保障制度論 公衆衛生学 保健医療福祉制度論		
専任	教授	堀川 悦夫 (65) <平成32年4月> 博士(学術)(医学)	専任	教授
		心理学 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 老年学 臨床心理学概論 カウンセリング論		
兼任	講師	堀川 悦夫 (64) <平成31年4月> 博士(学術)(医学)	兼任	講師
		心理学 カウンセリング論		
専任	教授	森 望 (65) <平成31年4月> 博士(薬学)	専任	教授
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 解剖学 生理学Ⅱ 視器解剖病態学Ⅱ 薬理学		
専任	教授	飛松 省三 (65) <平成32年4月> 医学博士	専任	教授
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 神経学Ⅰ 神経学Ⅱ		
兼任	講師	飛松 省三 (64) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師
		生理学実習		
専任	准教授	松藤 佳名子 (57) <平成32年4月> 修士(文学)	専任	准教授
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 視能矯正学総括論Ⅰ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視能検査学Ⅲ 視能検査学Ⅳ 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学総合演習Ⅱ 視能障害学実践演習 弱視斜視Ⅱ 弱視斜視Ⅳ 視能訓練学Ⅱ 視能訓練学Ⅲ 視能訓練学総合演習 視能訓練学特論 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ		
専任	准教授	宇野 宏一 (46) <平成31年4月> 博士(医学)	専任	准教授
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視能障害学Ⅲ 視能障害学Ⅳ		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	橋本 勇希 (33) <平成31年4月> 博士(医学)	専	准教授	橋本 勇希 (33) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 視能概論 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視能検査Ⅲ 視能検査Ⅳ 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学総合演習Ⅱ 視能障害学実践演習 視能訓練学Ⅱ 視能訓練学総合演習 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 視能概論 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視能検査Ⅲ 視能検査Ⅳ 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学総合演習Ⅱ 視能障害学実践演習 視能訓練学Ⅱ 視能訓練学総合演習 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ
専	講師	佐々木 信 (48) <平成31年4月> 博士(医学)	専	講師	佐々木 信 (48) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視能検査学基礎 視能検査Ⅲ 視能検査Ⅳ 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学総合演習Ⅱ 視能障害学実践演習 視能障害学特論 弱視斜視論基礎 弱視斜視論Ⅰ 視能訓練学Ⅰ 視能訓練学Ⅱ 視能訓練学総合演習 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視能検査学基礎 視能検査Ⅲ 視能検査Ⅳ 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学総合演習Ⅱ 視能障害学実践演習 視能障害学特論 弱視斜視論基礎 弱視斜視論Ⅰ 視能訓練学Ⅰ 視能訓練学Ⅱ 視能訓練学総合演習 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ
専	助教	志岐 早苗 (45) <平成31年4月> 修士(文学)	専	助教	志岐 早苗 (45) <平成31年4月> 修士(文学)
		コミュニケーション概論 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 医学英語Ⅰ 医学英語Ⅱ 英語(基礎) 英語(応用) 英会話			コミュニケーション概論 海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 医学英語Ⅰ 医学英語Ⅱ 英語(基礎) 英語(応用) 英会話
専	助教	王 美蘭 (45) <平成31年4月> 博士(法学)	専	助教	王 美蘭 (45) <平成31年4月> 博士(法学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 法学 中国語			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 法学 中国語
専	助教	潮井川 修一 (42) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	専	助教	潮井川 修一 (41) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理光学Ⅲ 関連職種連携 関連職種連携ワーク 視能矯正学総括論Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視能矯正学特論 視能検査学入門 視能検査Ⅲ 視能検査Ⅳ 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学総合演習Ⅱ 視能検査学特論 視能障害学実践演習 視能訓練学Ⅱ ロービジョン学 視能訓練学総合演習 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理光学Ⅲ 関連職種連携 関連職種連携ワーク 視能矯正学総括論Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 視能矯正学特論 視能検査学入門 視能検査Ⅲ 視能検査Ⅳ 視能検査学総合演習Ⅰ 視能検査学総合演習Ⅱ 視能検査学特論 視能障害学実践演習 視能訓練学Ⅱ ロービジョン学 視能訓練学総合演習 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ
兼任	講師	潮井川 修一 (41) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	潮井川 修一 (41) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		視能検査学入門			視能検査学入門
兼任	教授	今泉 勉 (71) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	今泉 勉 (71) <平成31年4月> 医学博士
		リスクマネジメント論 臨床医学概論			リスクマネジメント論 臨床医学概論
兼任	教授	終 幸伸 (59) <平成31年4月> 博士(保健医療学)	兼任	講師	終 幸伸 (59) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 関連職種連携			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座 関連職種連携
兼任	教授	北島 栄二 (52) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	北島 栄二 (52) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 大学入門講座

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	丹羽 敦 (55) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論
兼任	教授	菅原 洋子 (69) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		リハビリテーション概論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	諫山 照刀 (68) <平成32年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	小牧 元 (67) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理
兼任	教授	新居見和彦 (67) <平成32年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学
兼任	教授	小坂 克子 (64) <平成31年4月> 歯学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	黒岩 俊郎 (64) <平成32年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	尾籠 晃司 (60) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ
兼任	教授	副島 修 (59) <平成32年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	佐伯 和彦 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	田川 辰也 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ
兼任	准教授	松田 隆治 (53) <平成31年4月> 修士(人間工学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	多賀 誠 (50) <平成32年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	玉利 誠 (43) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	丹羽 敦 (55) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携論
兼任	教授	菅原 洋子 (69) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		リハビリテーション概論 海外保健福祉事情Ⅰ(講義) 海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	諫山 照刀 (67) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	小牧 元 (67) <平成31年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生命倫理
兼任	教授	新居見和彦 (66) <平成32年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 小児科学
兼任	教授	小坂 克子 (64) <平成31年4月> 歯学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	黒岩 俊郎 (63) <平成32年4月> 医学博士
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	尾籠 晃司 (60) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 精神医学Ⅰ 精神医学Ⅱ
兼任	教授	副島 修 (58) <平成32年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	佐伯 和彦 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	教授	田川 辰也 (54) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 病理学 内科学Ⅰ 内科学Ⅱ
兼任	准教授	松田 隆治 (53) <平成31年4月> 修士(人間工学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	多賀 誠 (49) <平成32年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	准教授	玉利 誠 (43) <平成31年4月> 博士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	藤田 大輔 (33) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	藤田 大輔 (32) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	吉村 美香 (46) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	吉村 美香 (45) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	山之口 稔隆 (39) <平成31年4月> 修士(医療経営管理学)	兼任	講師	山之口 稔隆 (39) <平成31年4月> 修士(医療経営管理学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 統計学 コンピューターの基礎 医療とICT 生理学実習			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 統計学 コンピューターの基礎 医療とICT 生理学実習
兼任	講師	吉塚 久記 (39) <平成32年4月> 修士(医科学)	兼任	講師	吉塚 久記 (38) <平成32年4月> 修士(医科学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	中園 寿人 (37) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	中園 寿人 (37) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 生理学実習 関連職種連携ワーク
兼任	講師	光武 翼 (34) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	光武 翼 (34) <平成31年4月> 博士(医学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	講師	佐野 伸之 (32) <平成31年4月> 博士(保健学)	兼任	講師	佐野 伸之 (32) <平成31年4月> 博士(保健学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	助教	木村 まり子 (49) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	兼任	助教	木村 まり子 (48) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	助教	吉田 亮平 (40) <平成32年4月> 修士(保健医療学)	兼任	助教	吉田 亮平 (39) <平成32年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク			海外保健福祉事情Ⅱ(実習) 関連職種連携ワーク
兼任	助教	谷口 隆憲 (36) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	兼任	助教	谷口 隆憲 (36) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)			海外保健福祉事情Ⅱ(実習)
兼任	講師	中村 京子 (71) <平成32年4月> 専門学校卒	兼任	講師	中村 京子 (70) <平成32年4月> 専門学校卒
		コミュニケーション技術Ⅰ(手話)			コミュニケーション技術Ⅰ(手話)
兼任	講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	今泉 博国 (70) <平成31年4月> 修士(経済学)
		経済学			経済学
兼任	講師	河崎 栄二 (64) <平成32年4月> 商学士	兼任	講師	河崎 栄二 (63) <平成32年4月> 商学士
		生理光学Ⅱ 視覚生理学Ⅱ			生理光学Ⅱ 視覚生理学Ⅱ
兼任	講師	今井 克己 (60) <平成31年4月> 博士(保健学)	兼任	講師	今井 克己 (61) <平成31年4月> 博士(保健学)
		栄養学			栄養学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	飯田 史也 (57) <平成31年4月> 博士(教育学)
		教育学			教育学
兼任	講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士(生物学)	兼任	講師	世波 貴子 (57) <平成31年4月> 修士(生物学)
		生物学			生物学
兼任	講師	後藤 純信 (58) <平成32年4月> 博士(医学)	兼任	講師	後藤 純信 (57) <平成32年4月> 博士(医学)
		救急医学			救急医学
兼任	講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士(理学)	兼任	講師	森本 幸生 (58) <平成31年4月> 博士(理学)
		生理学 I			生理学 I
兼任	講師	大津 泰子 (55) <平成31年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	大津 泰子 (55) <平成31年4月> 修士(教育学)
		保育			保育
兼任	講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士(理学)	兼任	講師	安本 誠一 (52) <平成31年4月> 博士(理学)
		物理学			物理学
兼任	講師	広瀬 美千代 (53) <平成32年4月> 短期大学士	兼任	講師	広瀬 美千代 (52) <平成32年4月> 短期大学士
		コミュニケーション技術 II (点 字)			コミュニケーション技術 II (点 字)
兼任	講師	尾崎弘明 (53) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	尾崎弘明 (53) <平成31年4月> 博士(医学)
		視能障害学 I			視能障害学 I
兼任	講師	新川 寿子 (51) <平成31年4月> 修士(保健医療学)	兼任	講師	新川 寿子 (51) <平成31年4月> 修士(保健医療学)
		人間発達学			人間発達学
兼任	講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	兼任	講師	桑野 博文 (49) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)
		社会学			社会学
兼任	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士(文学)	兼任	講師	馬原 亜矢 (50) <平成31年4月> 学士(文学)
		日本語 I 日本語 II 日本語 III 日本語 IV			日本語 I 日本語 II 日本語 III 日本語 IV
兼任	講師	村木 里志 (49) <平成31年4月> 博士(学術)	兼任	講師	村木 里志 (49) <平成31年4月> 博士(学術)
		人間工学			人間工学
兼任	講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)	兼任	講師	大谷 久也 (48) <平成31年4月> 修士(健康福祉学)
		ケアマネジメント論			ケアマネジメント論
兼任	講師	小山 哲矢 (50) <平成33年4月> 専門学校卒	兼任	講師	小山 哲矢 (48) <平成33年4月> 専門学校卒
		屈折矯正の実際			屈折矯正の実際

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士(経済学)	兼任	講師	伊藤 豪 (46) <平成31年4月> 修士(経済学)
		国際医療福祉論			国際医療福祉論
兼任	講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士(人文科学)	兼任	講師	吉原 雅子 (46) <平成31年4月> 博士(人文科学)
		哲学			哲学
兼任	講師	光藤 崇子 (44) <平成33年4月> 博士(人間環境学)	兼任	講師	光藤 崇子 (42) <平成33年4月> 博士(人間環境学)
		視覚と高次脳			視覚と高次脳
兼任	講師	石川 智恵 (44) <平成32年4月> 専門学校卒	兼任	講師	石川 智恵 (43) <平成32年4月> 専門学校卒
		視能検査学 I			視能検査学 I
兼任	講師	杉原 活郎 (43) <平成31年4月> 修士(異文化コミュニケーション学)			
		アジア比較文化論			
			兼任	講師	福井 謙 (47) <平成31年4月> 修士(学術)
					アジア比較文化論
兼任	講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	松瀬 博夫 (43) <平成31年4月> 博士(医学)
		リハビリテーション医学			リハビリテーション医学
兼任	講師	恒成 健 (43) <平成33年4月> 専門学校卒	兼任	講師	恒成 健 (41) <平成33年4月> 専門学校卒
		視能障害評価学			視能障害評価学
兼任	講師	中村 理央 (40) <平成31年4月> 博士(理学)	兼任	講師	中村 理央 (40) <平成31年4月> 博士(理学)
		生理光学 I			生理光学 I
兼任	講師	筒井 健太 (42) <平成33年4月> 専門学校卒	兼任	講師	筒井 健太 (40) <平成33年4月> 専門学校卒
		弱視斜視論Ⅲ			弱視斜視論Ⅲ
兼任	講師	廣瀬 信之 (39) <平成31年4月> 博士(文学)	兼任	講師	廣瀬 信之 (39) <平成31年4月> 博士(文学)
		視覚情報処理論 I 視覚と注意			視覚情報処理論 I 視覚と注意
兼任	講師	妹尾 武治 (41) <平成33年4月> 博士(心理学)	兼任	講師	妹尾 武治 (39) <平成33年4月> 博士(心理学)
		視覚とヴァーチャルリアリティ			視覚とヴァーチャルリアリティ
兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)	兼任	講師	松岡 佐智 (38) <平成31年4月> 修士(福祉社会学)
		ボランティア論			ボランティア論
兼任	講師	浦 智香子 (37) <平成32年4月> 専門学校卒	兼任	講師	浦 智香子 (36) <平成32年4月> 専門学校卒
		視能矯正学 II			視能矯正学 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	富松 江梨佳 (38) <平成33年4月> 博士(芸術工学)	兼任	講師	富松 江梨佳 (36) <平成33年4月> 博士(芸術工学)
		視覚情報処理論Ⅱ			視覚情報処理論Ⅱ
兼任	講師	田中 亨 (36) <平成32年4月> 専門学校卒	兼任	講師	田中 亨 (35) <平成32年4月> 専門学校卒
		視能検査学Ⅱ			視能検査学Ⅱ
兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	武藤 ゆう (34) <平成31年4月> 修士(文学)
		文学			文学
兼任	講師	中村 佑未 (33) <平成32年4月> 専門学校卒	兼任	講師	中村 佑未 (32) <平成32年4月> 専門学校卒
		視能矯正学Ⅰ			視能矯正学Ⅰ
兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)	兼任	講師	土持 貴志 (28) <平成31年4月> 修士(文学)
		倫理学			倫理学
兼任	講師	須長 正治 (55) <平成33年4月> 博士(工学)	兼任	講師	須長 正治 (53) <平成33年4月> 博士(工学)
		視覚情報処理論Ⅲ			視覚情報処理論Ⅲ
兼任	講師	藪 永珍 (37) <平成31年4月> 修士(芸術工学)			
		韓国語			
			兼任	講師	黄 慶旭 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)
					韓国語
兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)	兼任	講師	高原 和子 (57) <平成31年4月> 修士(体育学)
		健康科学理論 健康スポーツ実践			健康科学理論 健康スポーツ実践

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

本務校の都合により杉原活郎講師（兼任）の担当が難しくなったため、福井謙講師（兼任）に変更（教員審査省略）。
本人の都合により裏永珍講師（兼任）の担当が難しくなったため、黄慶旭講師（兼任）に変更（教員審査省略）。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
 - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
5	3	1	3	12	3	2	1	2	8
(3)	(2)	(1)	(2)	(8)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
5	3	1	3	12	5	3	1	3	12
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	0	5
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{12}{12} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし						
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	—	科目	必修	—	必修	—
		選択	—	科目	選択	—	選択	—
		自由	—	科目	自由	—	自由	—
		計	—	科目	計	—	計	—

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし		必修				
				選択				
				必修				
				自由				
				必修				
				必修				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	—	科目	必修	—	必修	—
		選択	—	科目	選択	—	選択	—
		自由	—	科目	自由	—	自由	—
		計	—	科目	計	—	計	—

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)		後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)				
0	人	必修	—	科目	必修	—	必修	—
		選択	—	科目	選択	—	選択	—
		自由	—	科目	自由	—	自由	—
		計	—	科目	計	—	計	—

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{12} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	- 科目	必修	- 科目	必修	- 科目
		選択	- 科目	選択	- 科目	選択	- 科目
		自由	- 科目	自由	- 科目	自由	- 科目
		計	- 科目	計	- 科目	計	- 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画	
設 置 時 (30年8月)	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項 設置の趣旨・目的を十分に踏まえ、設置計画を確実に履行するための運営組織を整えて教育研究活動を開始した。4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うため、学長は、教授会を始め諸会議体を通じて教育目標、カリキュラムの体系等について合意形成を図っている。 また、さらなる教育向上を図るため、英語教育を担当するネイティブ教員の採用手続きを進めている。	履行中	
設 置 時 (30年8月)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	留意事項 高い教育水準を達成するため、優れた教育研究能力を有する教員を配置したことから、完成年度には5名の教員が退職年齢を超えることとなる。(41.2%) これらの教員は、定年延長に関する内規の適用を受けるものであるが、教育研究の水準を維持しつつ教員年齢のバランスに配慮し、中長期的視野に立った人事計画を策定し教員組織を整備することとしている。	履行中	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<医療学部 視能訓練学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD活動に関しては、福岡国際医療福祉大学FD委員会を設置して取り組むこととしている。また、当面は、SDについてもこの委員会での審議に基づき、取組みを展開することとしている。なお、実際の教育運営は教務委員会での検討事項であり、FD委員会は教務委員会と連携し、教育の質の向上を目指すものである。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

2019年5月より開始予定。毎月第2水曜日実施予定。

c 委員会の審議事項等

- ・ 本学の設置の趣旨、教育目標の確認
- ・ 本年度のFD及びSD活動の基本方針について
- ・ 授業評価アンケートについて
- ・ 授業方法についての研究会について

② 実施状況

a 実施内容

今後、次のことを実施予定。

- ・ 新任教員研修
- ・ 授業方法についての研究会
- ・ 授業評価アンケート

なお、平成30年8月15日～16日（設置認可前）に就任予定の教職員を集め、以下の内容で合宿研修を行った。

- ・ 福岡国際医療福祉大学の設置構想について
- ・ 各学科の教育内容について
- ・ リハビリテーションの現況について
- ・ コンプライアンス（セクハラ、パワハラ、アカハラ等）について

b 実施方法

- ・ FD研修会を開催し、教育内容及び教育方法の向上の研修を行う。
- ・ 教務委員会で適正な成績評価基準の在り方等を検討、実施し、FD委員会で検証する。
- ・ 学外で開催されるFD研修会に参加した教員の知見を教授会、教務委員会等で報告し情報共有を図る。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

年に数回のFDフォーラム（全教員の参加を義務付ける。）開催のほか、テーマを設定した上で全教職員による研修会を開催する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ FDフォーラムを通じて共有した優れた教育実践を授業改善や学生支援に活用する。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期の終盤にすべての授業科目で学生による評価アンケートを実施する。アンケートは事務部学務課において集計し、学長へ報告する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

事務部学務課において集計したアンケート結果は、FD委員会で分析した上、各教員へ返却する。学生には、結果全体の報告書を学生ポータルサイトに掲載する。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すとともに、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深い教養および総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を養成し、地域医療はもとより国際社会にも貢献し得る有能な人材を養成することを目的に設置された。

開学後の4月より医療者としての素養が育まれる教育が行われている。現状においても質の高い授業が行われており、総合教育科目の、「医療とICT」「社会保障制度論」「医学英語Ⅰ」において、科学的・論理的思考力を身に付け、国際化に対応できる視点を養う学修をしている。専門基礎科目では、「解剖学」「生理学Ⅰ」において、人体の構造と機能など、医学全般にわたる基礎知識を学修し、専門科目の「視能検査学入門」において、視能検査学について学修している。なお、後期には、建学の精神に沿う「生命倫理」が開講される。

設置の趣旨・目的を達成するための、幅広い教養、豊かな人間性、保健医療に関する基礎知識の獲得ができていくものと捉えている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・設置初年度（2019年度）及び翌年度（2020年度）の2年間の教育研究活動を総括し、2021年5月公表予定。

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

・完成年度（2022年度）後、適切な時期に受審の予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 2019 年 9 月 30 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ 該当なし ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。